

2025年度

履修の手引き



地域に 未来に 多様なアートを



岩手県立大学

岩手県立大学
盛岡短期大学部

Iwate Prefectural University, Morioka Junior College

Iwate Prefectural University, Morioka Junior College

目 次

★ 学 年 暦

★ ディプロマ・ポリシー カリキュラム・ポリシー

カリキュラム概要図及び各年次の学び

★ 用 語 集

I 盛岡短期大学部の概要

1 生活科学科生活デザイン専攻.....	1
2 生活科学科食物栄養学専攻.....	2
3 国際文化学科.....	3

II 履修

1 はじめに.....	7
2 大学における学修について.....	8
3 授業.....	10
4 履修登録.....	12
5 試験.....	14
6 学修、授業を受ける際の注意事項.....	16
7 成績評価.....	18
8 卒業及び学位.....	20
9 他学科（専攻）履修.....	20
10 岩手県立大学間単位互換制度.....	21
11 文理融合データサイエンス教育.....	23
12 キャリア教育.....	24

III 授業科目一覧表

1 生活科学科	
・ 共通科目（両専攻共通）.....	27
・ 生活デザイン専攻専門科目.....	28
・ 食物栄養学専攻専門科目.....	31
2 国際文化学科.....	34

IV 履修登録下書き表

令和7(2025)年度学 年 暦

	日	月	火	水	木	金	土	学 事
4 月	6 13 20 27	7 14 21 28	1 8 15 22 29	2 9 16 23 30	3 10 17 24	4 11 18 25	5 12 19 26	3日 英語プレイズメント・テスト 4日 入学式 4日～10日 オリエンテーション・在学生ガイダンス 7日～10日 健康診断 8日～17日 前期履修登録期間 【履修登録制限科目の登録：8日～10日 9時】 11日 前期授業開始 21日～22日 前期履修登録確認期間（23日履修登録確定）（注5）
		3	2	3	2	3		
5 月	4 11 18 25	5 12 19 26	6 13 20 27	7 14 21 28	8 15 22 29	9 16 23 30	10 17 24 31	2日 火曜日授業（金曜日授業休講） 14日～20日 前期履修取消期間
		3	4	4	5	4		
6 月	1 8 15 22 29	2 9 16 23 30	3 10 17 24	4 11 18 25	5 12 19 26	6 13 20 27	7 14 21 28	19日 休業日（開学記念日） 27日 七夕祭
		5	4	4	3	4		
7 月	6 13 20 27	7 14 21 28	8 15 22 29	9 16 23 30	10 17 24 31	11 18 25	12 19 26	6日 オープンキャンパス 23日 月曜日授業（水曜日授業休講）
		4	5	4	5	4		
8 月	3 10 17 24 31	4 11 18 25	5 12 19 26	6 13 20 27	7 14 21 28	8 15 22 29	9 16 23 30	1日～7日 前期授業等調整期間 8日 授業予備日 12日～9月15日 夏季休業期間 13日～15日 全学一斉休業日（窓口閉鎖） 18日～22日 前期集中講義期間 30日～31日 電気設備定期点検による停電 25日～9月15日 学生センター窓口事務取扱時間短縮（～17時）
		15	15	15	15	15		
9 月	7 14 21 28	8 15 22 29	9 16 23 30	10 17 24	11 18 25	12 19 26	13 20 27	12日 前期成績通知 17日 秋季学位記授与式 16日～25日 後期履修登録期間 【履修登録制限科目の登録：16日～18日 9時】 19日 秋季入学式 24日 後期授業開始 30日～10月1日 後期履修登録確認期間（10月2日履修登録確定）
		1	1	1	1	1		

注1 〔学期末試験〕は、各授業曜日末（15回）を目安としますが担当教員の指示に従ってください。

2 〔授業等調整期間〕とは、補講、補習及び試験に利用できる期間を言います。

3 〔集中講義〕は、原則として上記日程で行いますが、講師の都合により変更となる場合があります。

4 上記日程は変更になる場合もありますので、掲示等に注意してください。

5 大学院ソフトウェア情報学研究科は別に定めるため、研究科の指示に従ってください。

6 ：授業日 ：学内立入制限日 ：授業等調整期間 ：集中講義期間 ：全学一斉休業日

	日	月	火	水	木	金	土	学 事
10月	5 12 19 26	6 13 20 27	7 14 21 28	1 8 15 22 29	2 9 16 23 30	3 10 17 24 31	4 11 18 25	16日 月曜日授業（木曜日授業休講） 【調整中】 防災訓練 22日～30日 履修登録取消期間 24日 休講 25日～26日 大学祭 29日 金曜日授業（水曜日授業休講）
		4	4	4	4	5		
11月	2 9 16 23 30	3 10 17 24	4 11 18 25	5 12 19 26	6 13 20 27	7 14 21 28	1 8 15 22 29	25日 月曜日授業（火曜日授業休講）
		3	3	4	4	4		
12月	7 14 21 28	1 8 15 22 29	2 9 16 23 30	3 10 17 24 31	4 11 18 25	5 12 19 26 27	6 13 20 27	12日 夢灯り 24日 月曜日授業（水曜日授業休講） 12月25日～1月5日 冬季休業期間
		5	4	3	3	3		
1月	4 11 18 25	5 12 19 26	6 13 20 27	7 14 21 28	1 8 15 22 29	2 9 16 23 30	3 10 17 24 31	27日～2月2日 後期授業等調整期間
		2	3	3	3	2		
2月	1 8 15 22	2 9 16 23	3 10 17 24	4 11 18 25	5 12 19 26	6 13 20 27	7 14 21 28	3日～6日 後期集中講義期間 3日～3月31日 春季休業期間 9日～3月31日 学生センター窓口事務取扱時間短縮（～17時）
		15	15	15	15	15		
3月	1 8 15 22 29	2 9 16 23 30	3 10 17 24 31	4 11 18 25	5 12 19 26	6 13 20 27	7 14 21 28	17日 学位記授与式（4大、大学院、短大） 19日 後期成績通知

盛岡短期大学部ディプロマ・ポリシー

目指す人材像

岩手県立大学盛岡短期大学部では、幅広い教養と専門的な知識を有し、地域社会・国際社会の発展に寄与できる人材を輩出することを目指します。

生活科学科においては、人間生活の「衣」「食」「住」に関する専門知識と技能を有し、地域社会に貢献できる能力を身につけた人材の育成を目指します。

生活科学科生活デザイン専攻においては、住居と衣服を中心とした生活に関わるデザインについての専門知識と技能を有し、それらを柔軟かつ創造的に活用できる人材の育成を目指します。

生活科学科食物栄養学専攻においては、食に関する科学的知識と技能を身につけ、食生活をより良い方向へ支援する実践能力を兼ね備えた、専門職（栄養士）として社会に貢献できる人材の育成を目指します。

国際文化学科においては、世界の多様な文化や社会、交流の歴史を理解し、豊かで実践的なコミュニケーション能力と国際感覚とを併せもち、地域社会の発展や国際化に貢献できる人材の育成を目指します。

そして、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し、かつ、単位を修得した学生を、次に掲げる「学生が卒業までに身につけるべき能力」を備えた者とし、生活科学科にあつては学位「短期大学士（生活科学）」、国際文化学科にあつては学位「短期大学士（国際文化）」を授与します。

学生が卒業までに身につけるべき能力

<生活科学科>

【生活科学科生活デザイン専攻】

DP1: 幅広い教養と豊かな感性を備え、主体的に行動できる。（幅広い教養）

DP2: 住居と衣服を中心とした生活に関わるデザインを多様な視点から見つめ、豊かな生活を自らつくり出すことができる。（専門知識）

DP3: 二級建築士受験資格を取得して卒業する者においては、二級建築士取得のための基本的な知識と技能が身についている。（専門知識）

DP4: 課題解決のための能力や実践力を身につけ、生活に関わる幅広い分野において、地域社会に貢献できる。（課題発見・解決能力）

【生活科学科食物栄養学専攻】

DP1: 幅広い教養と豊かな感性を備え、主体的に行動できる。（幅広い教養）

DP2: 食に関する知識を修得し、それを日常の生活において生かしていくことができる。（専門知識）

DP3: 栄養士として必要な専門知識や技能を身につけ、専門職として活躍できる。（専門知識）

DP4: 課題解決のための能力や実践力を身につけ、食に関する分野において、地域社会に貢献できる。（課題発見・解決能力）

<国際文化学科>

DP1: 幅広い教養と豊かな感性を備え、主体的に行動できる。（幅広い教養）

DP2: 西洋・アジア・日本の文化や社会及び交流の歴史を幅広く理解することを通して、国際感覚が身についている。（専門知識）

DP3: 自らが生活する地域社会とそこにみられる様々な文化を深く理解し、地域の文化の振興、国際化に積極的に貢献できる。（社会への関心）

DP4: 豊かで実践的なコミュニケーション能力を身につけ、主体的に考え発言できる。（コミュニケーション能力）

盛岡短期大学部カリキュラム・ポリシー

盛岡短期大学部の教育内容及び教育方法

岩手県立大学盛岡短期大学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げた能力の育成のため、基盤となる科目（「共通科目」、「基盤科目」）と専門となる科目（「基礎専門科目」、「専門科目」）を中心としたカリキュラムを編成・実施し、学生が主体的・能動的に学ぶことができるよう、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。

<生活科学科>

生活科学科では、専攻共通の基盤となる科目、専攻別の専門となる科目からカリキュラムを構成しています。

専攻共通の基盤となる科目である「共通科目」は、本学科での学習活動や社会生活において不可欠な知識・技能や、幅広く豊かな教養に基づく総合的な判断力を育成することを目的とし、以下のような科目群を開講します。

CP1:本学科での学習活動において不可欠な知識・技能を育成するために、共通科目に「基礎科目」を開講します。(DP1)
CP2:社会生活を送る上で必要である幅広い教養と豊かな感性を身につけるため、共通科目に「教養科目」を開講します。(DP1)
CP3:グローバル化時代に必要な広い視野、異なる文化を持つ人たちと共に生きていく能力を育成するため、共通科目に「外国語関係科目」を開講します。(DP1)

【生活科学科生活デザイン専攻】

生活科学科生活デザイン専攻の専門となる科目は、住居と衣服を中心とした生活に関わるデザインについての専門知識と技能を多面的かつ体系的に学ぶことができるよう、「基礎専門科目」と「専門科目」で構成されています。

CP4:生活に関わるデザインを学ぶ上で基礎となる知識と技能を修得するため、「基礎専門科目」を開講します。専門科目の内容を理解するために必要な知識や考え方について幅広く学びます。(DP1、DP2、DP3)

CP5:生活に関わるデザインを実践する上で必要となる専門的な知識と技能を修得するため、「専門科目」を開講します。

住居のデザイン、衣服のデザインを多様な視点からとらえて思考できるようにするため、それぞれの分野についての専門的な知識を横断的に学びます。また、豊かな感性を身につけ、それを生かしたアイデアを表現するために必要な技能の修得を目指します。(DP2、DP3)

さらに、少人数・学生主体で行われる「卒業研究」では、教員の専門研究領域に応じたテーマの研究を通して、課題発見・解決能力や実践力などを育成します。(DP4)

なお、所定の科目の単位を修得することにより、二級建築士の受験資格を取得できる内容となっています。

【生活科学科食物栄養学専攻】

生活科学科食物栄養学専攻の専門となる科目は、栄養や食に関する専門知識と技能を修得することを目的として、「基礎専門科目」と「専門科目」で構成されています。

CP4:現代人の食生活や環境、生命と健康について学ぶため、「基礎専門科目」を開講します。専門科目を履修するために必要な知識や考え方について学びます。(DP2、DP3)

CP5:栄養士に必要な知識や技能を修得するため、「専門科目」を開講します。身体の構造や機能、食品の化学的性質、栄養学の基礎や応用、栄養教育、集団給食の管理・運営などの講義や実験・実習を通して、栄養士として人々の食生活を支える知識と技能を修得し、科学的思考に基づく実践力の育成を目指します。

少人数・学生主体で行われる「卒業研究」では、教員の専門研究領域に応じたテーマの研究を通して、課題発見・解決能力や実践力などを育成します。(DP2、DP3、DP4)

<国際文化学科>

国際文化学科では、基盤となる科目（「基盤科目」）、専門となる科目（「基礎専門科目」、「専門科目」及び「実践科目」）からカリキュラムを構成しています。

国際文化学科の基盤となる科目は、「教養科目」と「キャリアデザイン科目」で構成されています。専門科目の学習に必要な基礎的な知識を身につけるとともに、社会生活を営む上で不可欠な知識や判断力などを培います。

CP1:「教養科目」では、人間への理解、社会への理解などを通して、実り豊かな人生を創造していくために欠かすことのできない幅広い教養と豊かな感性を身につけます。また、専門科目での文化理解に必要とされる基礎的な視点を養います。(DP1、DP2、DP3)

CP2:「キャリアデザイン科目」では、自己についての理解を深め、人生観・職業観を確立することをねらいとし、自らの人生設計を考える科目を開講します。(DP3、DP4)

国際文化学科の専門となる科目は、実践的なコミュニケーション能力を身につけるとともに、世界の多様な文化や社会、交流の歴史を理解するために、「基礎専門科目」、「専門科目」及び「実践科目」から構成されています。

CP3:「基礎専門科目」では、専門科目の履修に備え、現代を取り巻く文化や社会を理解するとともに、プレゼンテーション、言葉による表現能力といったコミュニケーションスキルの向上を目指します。(DP2、DP4)

CP4:「専門科目」では、「西洋」「アジア」「日本」それぞれの文化、思想、社会、歴史について、比較の視点も取り入れながら学びます。今日の社会にあっては一つの学問分野・フィールドのみで解決できる問題がないことを理解するとともに、三つの地域を中心とした多角的な学習への取り組みを重視します。

履修の集大成として「卒業研究」を作成します。「卒業研究」は、各自が提出したテーマに基づいてそれぞれ専門とする教員のもとで、少人数・学生主体で調査研究を進めます。(DP2、DP3)

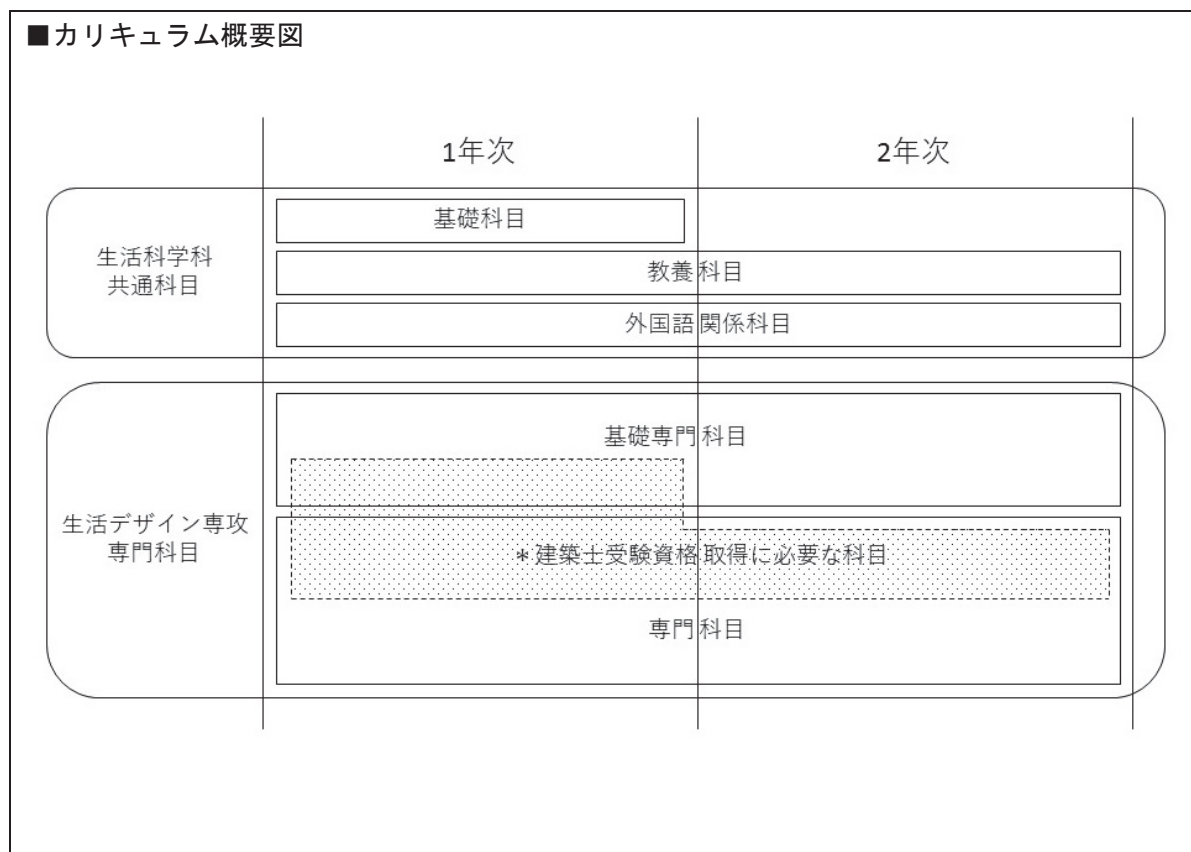
CP5:「実践科目」では、社会で必要とされる実践的な知識と能力を身につけます。(DP2、DP3、DP4)

カリキュラム概要図及び各年次の学び

<生活科学科>

生活科学科では、専攻共通の基盤となる科目、専攻別の専門となる科目からカリキュラムを構成しています。専攻共通の基盤となる科目である「共通科目」は、本学科での学習活動や社会生活において不可欠な知識・技能や、幅広く豊かな教養に基づく総合的な判断力を育成することを目的としており、「基礎科目」「教養科目」「外国語関係科目」の3つの科目群によって構成されています。（DP1）

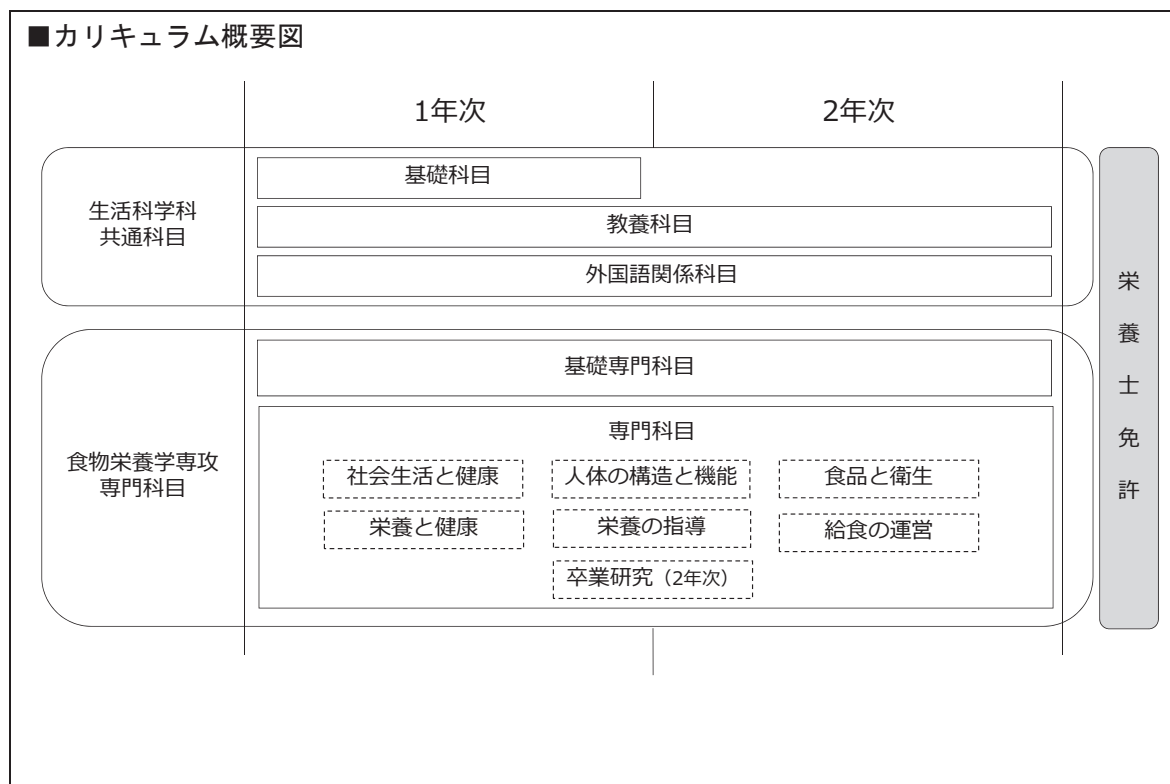
【生活科学科生活デザイン専攻】



生活科学科生活デザイン専攻の専門となる科目は、住居と衣服を中心とした生活に関わるデザインについての専門知識と技能を多面的かつ体系的に学ぶことができるよう、「基礎専門科目」と「専門科目」で構成されています。住居のデザイン、衣服のデザインを多様な視点からとらえて思考できるようにするため、それぞれの分野についての専門的な知識を横断的に学びます。また、豊かな感性を身につけ、それを活かしたアイディアを表現するために必要な技能の修得を目指します。なお、所定の科目の単位を修得することにより、二級建築士の受験資格を取得できる内容となっています。（DP1、DP2、DP3、DP4）

2年間という短い就学期間のため、それぞれの科目を各年次で履修しますが、1年次では共通科目と基礎専門科目のウェイトが高く、2年次では専門科目のウェイトが高くなっています。

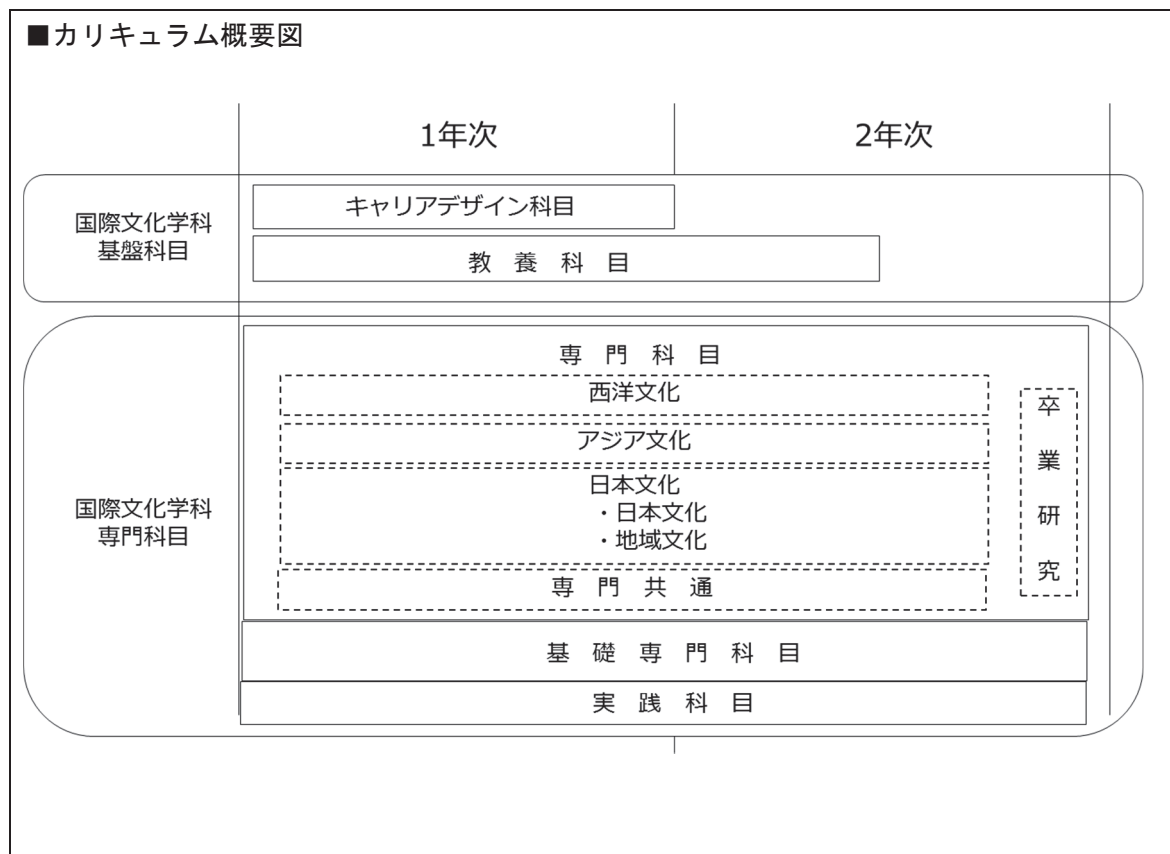
【生活科学科食物栄養学専攻】



生活科学科食物栄養学専攻の専門となる科目は、栄養や食に関する専門知識と技能を修得することを目的として「基礎専門科目」「専門科目」で構成されています。「基礎専門科目」では「専門科目」の履修に必要な知識や考え方を学びます。「専門科目」では、社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康、栄養の指導、給食の運営の6領域の講義や実験・実習を通して、栄養士として人々の食生活を支える知識と技能を修得し、科学的思考に基づく実践力を養います。なお、規定の科目と単位を修得することにより栄養士の資格を取得できます。（DP1、DP2、DP3、DP4）

2年間という短い就学期間のため、それぞれの科目を各年次で履修しますが、1年次では共通科目と基礎専門科目のウェイトが高く、2年次では専門科目のウェイトが高くなっています。

<国際文化学科>



【1年次】

1年次は、教養科目、基礎専門科目、キャリアデザイン科目が中心となります。教養科目では、人文社会科学の基礎的な視点を養います（DP1、DP2、DP3）。基礎専門科目では、演習の基礎的スキルを学ぶ授業のほか、日本語・英語の授業が中心となっています。その他、海外研修の授業も重要なものとして位置付けられています（DP2、DP4）。

キャリアデザイン科目は通年で開講され、人生観・職業観を確立するための重要な科目です（DP3、DP4）。

専門科目では、第二外国語のほか、〇〇の歴史、〇〇の文化と思想といった授業が中心となり、専門分野の概要を学びます（DP2、DP3）。

実践科目では、外国語の授業のほか、情報処理やビジネス実務に関する演習が中心となります（DP2、DP3、DP4）。

【2年次】

2年次は、1年次と比較すると専門科目が中心になります。教養科目は2年前期で終わります。基礎専門科目も、英語を除くと前期で終わります。ですが、この「総合英語」の授業は1年次同様必修となっており重要な科目です（DP2、DP4）。

専門科目では、〇〇社会論、〇〇文化論、〇〇研究法、〇〇演習といった、専門性に特化した演習授業が中心になります。履修の集大成として2年後期に「卒業研究」を作成することが必修となっています（DP2、DP3）。

実践科目では、英語の科目と小論文のスキルを向上させる授業が行われます。

用語集

オムニバス方式 (Omnibus)		ある一つのテーマに対し、複数の教員がそれぞれ独立した講義等を行い、一つの授業科目として成立させる授業方式。
学期		学校において教授、学習、校務等の整理の便宜のために学年をいくつかに分けた期間。学則により定めており、本学の場合には前期と後期の2期制としている。なお、1年を数回の学期に区分し、学期ごとに授業を完結し成績評価を行う制度を「セメスター制」という。
CAP制度 (Credit Cap System)		履修科目の登録に際し、学期ごとに履修することができる単位数に上限を定める制度。学習すべき授業科目を精選することにより十分な学習時間を確保し、授業内容の十分な理解を進めることを目的とする。本学では、四大においてこの制度を導入している。
カリキュラム・ポリシー (CP) (Curriculum Policy)		教育課程の編成方針。各課程教育において、ディプロマ・ポリシーで定めた達成目標の実質化・体系化を図るための方策・手段。
コンソーシアム (Consortium)		複数の個人、企業、団体、政府(又はこれらの任意の組合せ)により組織される団体。高等教育機関においては、近隣地域に立地する複数の大学等により高等教育及び学術研究の振興、地域社会への寄与等を目的として組織されることが多い。 岩手県では平成20年に「いわて高等教育コンソーシアム」が設置され、共同シンポジウム、構成大学間の単位互換、図書館の相互利用等の事業を実施している。加盟校は岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、富士大学、岩手医科大学、岩手県立大学盛岡短期大学部、岩手県立大学宮古短期大学部、盛岡大学短期大学部、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校、岩手保健医療大学の11校となっている。
在学年限		在学することができる年限。本学においては、学部(又は大学院)の学生は休学期間を除き8年(岩手県立大学学則第8条)。盛岡短期大学部の学生は4年(岩手県立大学盛岡短期大学部学則第8条)。研究科博士前期課程の学生は4年、博士後期課程の学生は6年(岩手県立大学大学院学則第6条)。
試験	期末試験	学期末までに期間を定めて行うが、授業科目によっては、随時行われる試験。 試験の方法(筆記、口述発表、論文・レポート提出、実技又は作品制作等のいずれか、若しくはこれらの併用による)は、当該授業科目の各担当教員が決定し、実施している。
	追試験	所定の試験に欠席した者に対する試験。原則として行わないが、病気その他やむを得ない事情がある場合に限り、願い出により追試験を受けることができる(岩手県立大学履修規程第8条)。
	再試験	試験を受験して不合格になった者に対する再度の試験。原則として行わないが、やむを得ない事情により教授会で認められた場合には、再試験を受けることができる(岩手県立大学履修規程第9条)。
	不正行為	試験(期末試験、追試験、再試験)において不正行為をした者は、学則の規定による懲戒処分のほか、履修規程の規定による成績「不可」の措置がある。
再履修		単位を修得することができなかった(「不可」の評価を受けた)科目を、次学期以降に改めて履修すること。再履修により「可」以上の評価を受けた場合には、GPAの算定において前学期以前の「不可」の評価は除外される。
GPA制度 (Grade Point Average)		学生ごとの成績を履修単位当たりの平均値により表す制度。成績が数値化されることにより、学生の学習意欲の向上、厳格な成績評価、適切な修学指導への効果等を目的としている。 本学においては、5段階の評価(秀、優、良、可、不可)にそれぞれ4～0のGP(グレードポイント)を与え、この点数の履修単位当たりの平均値を算出するものとしており、対象となる科目は学部により異なる。学期GPA、年度GPA、通算GPAの3種類が算定される(岩手県立大学グレードポイントアベレージ制度運用規程)。
自由聴講科目		自由選択により履修することができるが、卒業に必要な単位として算定されない科目。
修業年限		卒業(修了)するために必要となる、学校に在学する年限。本学の場合、学部は4年(岩手県立大学学則第7条)、盛岡短期大学部は2年(岩手県立大学盛岡短期大学部学則第7条)、研究科博士前期課程は2年、博士後期課程は3年(岩手県立大学大学院学則第5条)。
集中講義		通常の授業とは別に、主として他大学等の教員により特定の日時に集中して行う授業。夏季・春季休業期間中に「集中講義期間」が設けられる。
授業等調整期間		正規の授業期間内に休講となった科目の補講又は学期末の試験を集中的に実施する期間。この期間は特別な時間割が作成され、掲示により周知される。

シラバス (Syllabus)		授業計画の詳細を示す資料。授業の全体概要、各回の授業内容、成績評価の基準及び方法、教科書・参考書籍等が示される。本学においては、事務管理公開システム又は大学ホームページから参照することができる。
先修条件		ある授業科目を履修するにあたって、その前に履修しておく必要がある別の授業科目その他の必要な条件(岩手県立大学履修規程第11条)。
選択科目		自由選択により履修することができるが、その中から卒業に必要となる所定の単位を修得しなければならない科目。
卒業(修了)要件		卒業(修了)するための要件。大学の場合には、124単位以上を修得するものとされている(大学設置基準第32条)。短期大学の場合には、62単位以上修得するものとされている(短期大学設置基準18条)。大学院の場合には、博士前期課程は2年以上在学し、30単位以上修得、かつ、修士論文の審査及び試験に合格すること、博士後期課程は大学院に5年(修士課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、博士論文の審査及び試験に合格することとされている。(大学院設置基準第16条、第17条)。 修得が必要となる授業科目及び単位数の内訳については、学則別表に学部・研究科ごとに定められている。
単位互換		短期大学、四年制大学や大学院が相互に他大学の学生の聴講を認め、学生が在学以外に大学の授業に出席し所定の試験に合格した場合には、その結果を在学における単位として認定する制度。
単位制度		単位を基準として学習量を測る仕組み。1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容で構成することが標準とされている。おおむね15時間～45時間までの範囲で大学が定める時間をもって1単位とする。(大学設置基準第21条第2項)
長期履修学生制度		学生が職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを認める制度(大学院設置基準第15条、大学設置基準第30条の2の準用)。本学では、大学院においてこの制度を導入している(岩手県立大学大学院学則第13条の3)。
教育アシスタント	ティーチング・アシスタント (TA) (Teaching Assistant)	教育の補助業務を行う学生。大学院生を対象として、学部学生等に対する助言や実験・実習・演習等の授業補助業務を行わせることにより、大学院生への教育トレーニング機会の提供と、手当の支給による経済的支援を目的としている。
	スチューデント・アシスタント(SA) (Student Assistant)	学士課程の学生を授業の補助業務に携わらせる場合、TAとは区別してスチューデント・アシスタント(SA)という。
ディプロマ・ポリシー (DP) (Diploma Policy)		学位授与の方針。卒業(修了)までにどのような能力の習得を目指すのか、学生が達成すべき具体的な学習成果を設定したもの。
ピア・サポート (Peer Support)		ピア(仲間)同士によりサポート(支援・支え合い)を行う仕組み。大学においては、生活面や学習面等において先輩や友人が相談相手となる等の制度をいう。
必修科目		卒業要件として必ず修得しなければならない科目。
プレイacement・テスト (Placement Test)		習熟度別クラス分けのための試験。本学においては「英語基礎演習」・「英語実践演習」科目において受講者の習熟度水準に応じた授業を行うために実施している。
履修制限科目		教育効果の観点、又は教室の収容定員の関係上、履修者の人数制限を設ける科目。本学においては、他の科目とは別に履修登録日(時間)を設け、システムによる抽選で履修者を決定する。
履修登録		各学期の初め(年2回)に、学生自らが履修しようとする授業科目を登録する必須の手続。この手続を行わずに授業や試験を受けても単位を修得することはできない。
履修取消制度		履修登録科目確定後、「授業の内容が自分の関心と異なっていた」「授業についていけない」等の事情が発生した場合に、履修放棄によるGPAの低下を防ぐための措置として、履修登録の取消しをすることができる制度。履修取消期間中に取消しのみ認められ、新たな科目の登録をすることはできない(岩手県立大学履修規程第4条の2)。

I 盛岡短期大学部の概要

1 生活科学科生活デザイン専攻

1 教育理念・教育目標

未来に向けての人間生活の最大の課題のひとつは、人間とそれを取り巻く環境との持続的関係の構築であり、地球規模から個人生活までのそれぞれのレベルでの対応が求められています。とりわけ、家族や地域規模での環境に配慮したライフスタイルを意識的に築いていくことが不可欠です。またさらに、近年の環境問題や次世代に受け継ぐエネルギー問題は、住環境と衣環境を融合して考える必要性を提示しています。

生活デザイン専攻では、こうした社会問題に対応できる問題解決能力に優れた人材の育成、ならびに、幅広い教養に関する知見をも融合し、もって現在よりもさらに多様化が予測される将来の生活を、自ら考え、そして作り出せる人材の養成を教育理念としています。

また、具体的な教育目標として、人間生活の「住」と「衣」に関する高度な技術と見識を持って、さまざまな社会問題を解決し、かつ地域に対する貢献をなす即戦的能力を持った人材の育成を目指し、社会が要請する諸資格を得られるような「実学」をも重視する教育を行います。

2 教育研究内容・特色

生活デザイン専攻のカリキュラムは、共通科目、基礎専門科目、専門科目の3つの科目群から構成されています。

共通科目は、高度化する各専門分野の効果的・効率的な理解・応用に役立つ基礎的な技術の修得を目指すとともに、社会生活を送る上で必要となる豊かな人間性と幅広い教養を身につけることを目標とします。

基礎専門科目と専門科目では、人間生活とそれを取り巻く生活環境としての「住」環境と「衣」環境とを総合的に理解するとともに、我々の生活自体が環境に及ぼす影響や今後の望ましい生活環境のあり方を考えるため、「住」と「衣」を中心とした科目、および人間社会の理解や高齢化社会に向けた科目の充実を図っています。

それぞれの科目では、講義と演習、実験、実習を通じ、「住」と「衣」について科学的かつ多角的、総合的にとらえながら実生活へ応用できることを目指します。

特に住関連では、所定の単位を修得すれば、国家資格である二級建築士と木造建築士の受験が可能となっています。(卒業後の実務経験は不要)

2 生活科学科食物栄養学専攻

1 教育理念・教育目標

『食習慣は健康づくりの基本』といわれています。食物栄養学専攻では、まず、自らが生涯にわたって健康で活動的な充実した人生を送ることができるように、健康科学の専門的な知識・技術を修得するとともに、広く食について学び、日々の生活に生かすことのできる能力を養う教育を行っています。

少子高齢社会の進行にともない、予防を重視した健康増進対策の必要性が高まっています。その中でも、生活習慣の 1 つである「食生活」の健康への影響は大きいといわれています。そのため、「食」による「健康の維持・増進」や「食教育」に関する専門知識と応用能力を持った人材が求められています。

食物栄養学専攻では、「社会生活と健康」、「人体の構造と機能」、「食と健康」について学ぶことを通して、人と食に関する科学を基礎から応用まで体系的に理解していきます。

授業は少人数体制で講義・演習・実験・実習をおこない、教員と学生、あるいは学生相互間で活発なコミュニケーションが取れるようにしています。さらに、整備された情報環境のもと、岩手県立大学各学部との単位互換制度を活用して、より深く学びたいと思う分野の科目を履修することもできます。

栄養士免許を取得するために必要な科目を中心にカリキュラムを組み、より良い方向へ食生活を支援する知識と技術を備えた社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

2 教育研究内容・特色

食物栄養学専攻のカリキュラムは、共通科目、基礎専門科目、専門科目の 3 つの科目群で構成されています。卒業に必要な科目のほか、所定の科目を履修すると栄養士の資格を取得することができます。

共通科目は、高度化する各専門分野の効果的・効率的な理解・応用に役立つ基礎的な技術の修得を目指すとともに、社会生活を送る上で必要となる豊かな人間性と幅広い教養を身につけることを目標とします。

基礎専門科目は、現代人の食生活や環境について理解するための科目、及び、生命と健康について学ぶ上で基礎となる科目で構成されています。専門科目を履修する前に必要な知識や考え方について学びます。

専門科目は、栄養士の免許を取得するために必要な科目を中心に構成されています。おもに身体の構造や機能、食品の化学的性質を知り、食品に含まれる栄養素の働きなどを学び、「食による生活習慣病」を予防し、ライフステージや病態にそった栄養管理ができる能力と技術を修得するための科目です。また、栄養学の基礎や応用、栄養教育、特定給食施設の運営・管理などの講義や実習を通して、栄養士の業務に関わる知識と技術について学びます。さらに、ゼミ形式で行われる「卒業研究」では、教員の専門教育研究領域ごとに、各自が選んだテーマの研究を通して、計画力、問題解決能力、実践力などを培います。

卒業後、3年間の栄養士の実務を経験した後に管理栄養士国家試験を受験することができます。

3 国際文化学科

1 教育理念・教育目標

学問とその膨大な蓄積は、限りある時間と空間の中で先人が努力を重ね、人間の自由と、人間を取り巻くさまざまな世界や存在を追究し、深く知ろうとする強い願いのもとに為されてきたものです。こうした蓄積を土台とし、異なる文化、思想、歴史を持つ他者と対話を重ねながら共同作業を行うことの難しさ、その大切さを学ぶことは、国際化の時代にあって大学の重要な責務のひとつとなっています。社会の様々な問題を見極め、解決に向けて選択肢を考え、主体的、かつ実践的に取り組むことによって、知識はひとつの力となります。

他者の自由と権利に最大限の敬意を抱きそれを守ること、多様な文化や思想、歴史に対する深い洞察を重ねた学習の軌跡こそは、しなやかでかつ強靱な知性となって、みなさんが関わる全ての他者に大きな影響を与えることになるでしょう。そのような実践的知性を育成するために、国際文化学科は次の3点を教育目標として掲げています。

- 西洋・アジア及び日本の多様な文化や交流の歴史を幅広く理解し、これを尊重する豊かな国際感覚を身につけた、良識ある人材を育成する。
- 自らが生活する地域とそれが持つ文化の諸相をより深く理解し、地域文化の振興や地域の国際化に積極的に寄与する人材を育成する。
- 豊かで実践的なコミュニケーション能力を身につけ、主体的に考え発言できる自立した人材を育成する。

2 教育研究内容・特色

国際文化学科のカリキュラムは、教養科目、キャリアデザイン科目、基礎専門科目、専門科目、実践科目で構成されています。

《教養科目》

それ自体が独立した科目群であるとともに、専門科目での文化理解に必要とされる基礎的な視座を養います。人間への理解、社会への理解などが総体的に促されるとともに、実り豊かな人生を創造していく上で欠かすことのできない知性と教養が磨かれます。

《キャリアデザイン科目》

自己についての理解を深め、人生観・職業観を確立することをねらいとし、自らのキャリアをデザインできるようになるための科目です。

《基礎専門科目》

日本、地域及び諸外国の文化に関する専門科目の履修に備え、文化に対する幅広い思考力、判断力を養うとともに、研究調査、プレゼンテーション、言葉による表現能力といったコミュニケーションスキルの向上を目指す科目を多く配置し、少人数クラスによる実践的指導を行います。

《専門科目》

専門科目は「西洋」「アジア」「日本」の各文化領域の科目から構成されています。これら専門科目では、関心のある地域の文化や歴史を中心に、その他の地域の様々な文化的領域を横断的に履修することが可能となっています。また、概論から研究法、さらには演習授業へと、学習の進展に従って段階的に履修できるように工夫されており、卒業研究と連動させることによって課題に対する実践的な取り組みを可能とします。

《卒業研究》

履修の集大成として「卒業研究」を作成します。「卒業研究」は、各自が提出したテーマに基づいてそれぞれ専門とする教員のもとで、他の文化領域と有機的連関を図りながら、ゼミ形式で調査研究を進めるもので、2年次進級とともに開始されます。

《実践科目》

社会での実践運用に備え、情報処理、ビジネス実務、ビジネス英語などの科目が開設されています。

Ⅱ 履 修

1 はじめに

1. 履修の手引き

本書「履修の手引き」は、皆さんが本学で学業を進めていく上で必要な、履修に関する事項を学則や履修規程等に基づいて編集したものです。

卒業するまで常に手元に置いて機会あるごとに参照し、正しい認識のもと履修計画に役立ててください。

2. 掲示・連絡

大学では、学生への重要な通知や連絡及び、履修や授業に関わる情報は、**本部棟・共通講義棟間通路と、各学部棟入口にある電子掲示板や事務管理公開システム**により通知します。授業や試験等に関わる重要な情報ですので、必ず毎日確認してください。掲示や通知された事項は学生全体に周知されたものとみなされます。

また、学生個人宛にメールで連絡を行うこともあります。メールチェックも定期的に行うようにしてください。

掲示やメールによる連絡を見落としたことにより不利益を受けた場合でも、自己責任となりますので十分注意してください。

3. 相談窓口

履修や成績に関することで分からないことがあるとき、呼び出しを受けたときは、本部棟1階の学生センターにお問い合わせください。

4. Web学生便覧

本書のほか、岩手県立大学ホームページ内「Web 学生便覧」には、履修関係の重要な情報を随時掲載しています。定期的に確認してください。

また、各種証明書の申請用紙をダウンロードできます。

岩手県立大学ホームページ内「Web 学生便覧」アドレス

<https://www.iwate-pu.ac.jp/living/gslife/index.html>

- ・学年暦
- ・時間割
- ・シラバス
- ・学則、履修規程などの規程集
- ・各種様式(証明書交付願、欠席届など)

(参考)履修に関する諸規程

- ・岩手県立大学盛岡短期大学部学則
- ・岩手県立大学盛岡短期大学部学位規程
- ・岩手県立大学盛岡短期大学部履修規程
- ・岩手県立大学グレードポイントアベレージ制度運用規程

Web学生便覧
QRコード



2 大学における学修について

1. 履修とは

大学では、学位修得(卒業)に向けて必要な科目を選択し、授業を受けます。卒業までには多くの科目の授業を受ける必要がありますが、それらの科目を各自の目標に応じて習い修めていくことが「履修」です。

履修は、本学の学則や履修規程等に沿って行われます。その中で、どの授業を履修するのか、学期ごとの時間割はどうするのかなど、大学において何をどのように学んでいくのかを決めるのは学生自身ですので、一人一人がよく考えて履修を進める必要があります。

2. 履修計画

大学における科目履修は、自らの責任において履修計画を立て、卒業に必要な単位を自主的に修得していくことに特徴があります。

履修の方法を誤ると、進級や卒業、資格取得に影響を及ぼすことがあります。以下の資料を熟読し、しっかりと履修計画を立ててください。

- 授業時間割表(Web 学生便覧)
- 授業科目一覧表(履修の手引き掲載)
- シラバス(事務管理公開システムから参照)

また、毎年4月に行われる各種ガイダンスは、履修関係の重要な情報を得る機会ですので必ず出席してください。

3. シラバス

シラバスとは、授業の内容や進め方などを記した授業計画書のことです。履修する科目の選択、授業の受講にあたり、大切な情報が記載されています。シラバスをよく読むことにより、その科目に関する具体的なイメージを持つことができるとともに、各自の履修計画における各科目の位置づけを把握することもできます。

シラバスは年度ごとに更新され、前期開講科目と後期開講科目のいずれも年度の開始時には公開されます。履修登録前には、当該学期に開講される科目のシラバスに必ず目を通し、履修する科目選択の参考にするとともに、その授業の学修目標をしっかりと理解した上で授業にのぞむことが重要です。

シラバスの記載内容

- 授業科目名(英語名)
- 担当教員
- 開講期間
- 配当年
- 正課学生以外の受講
- 教育課程
- 授業形態
- 資格対応
- 授業のねらい・概要
- キーワード
- 学修目標
- 授業の位置付け
- 授業の計画
- 教科書【学生が必ず準備するもの】
- 参考書等
- 授業の形式
- 成績評価の方法
- 授業前、授業後の学修
- 履修にあたっての留意点
- 実務経験を生かした授業内容

シラバス検索画面

QRコード



4. 単位制度

単位とは学修時間を表す名称で、個々の授業科目について所定の時間を履修し、試験その他の方法により合格と判定されたときに与えられます。

単位数は授業科目ごとに定められ、卒業に必要な単位数(卒業要件単位数)は、学部ごとに定められています。

各授業科目の単位数は、**1単位の授業科目を教室内、教室外を合わせて 45 時間の学修を必要**とする内容で構成され、次の基準により算定されます。

講義、演習	15 時間～30 時間の範囲内で定める時間の授業をもって 1 単位とする。
実験、実習、実技	30 時間～45 時間の範囲内で定める時間の授業をもって 1 単位とする。
卒業研究・制作等	必要な学修等を評価して所定の単位を与える。

自学自習について

単位を修得するためには、教室内の学修(授業)だけでなく、教室外の学修(自学自習)を合わせた十分な学修が必要です。担当教員の指示に従いながら、主体的に取り組みましょう。

【参考】例えば、2単位修得するためには…

1単位45時間の学修が必要ですから、2単位の講義科目で単位を修得するためには90時間の学修が必要ということになります。90時間の内訳は、授業15回で30時間(1回の授業時間90分は2時間として換算します)、残り60時間がその授業に対する自学自習に要する時間です。

	1 授業あたりの学修時間	1 学期当たりの授業	合計時間数
授 業	2時間	15 回	30 時間
自学自習	4時間	15 週	60 時間
計			90 時間

1 回の授業につき、
4 時間の自学自習が必要!

3 授業

1. 授業時間(滝沢キャンパス)

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

2. 授業の実施場所

授業は共通講義棟や各学部棟などで行われます。

それぞれの授業の実施場所は、授業時間割で確認してください。教室の場所が分からないときは、「**学生便覧**」のキャンパスガイドで調べることができます。

3. 教室変更

授業の担当教員の判断により教室を変更することがあります。

4. 休講

大学の行事又は授業担当教員の公務、出張、病気等の理由により授業ができなくなった場合は、休講になります。

教員の事前指示や休講・教室変更の掲示がなく、授業開始時刻から 30 分経過しても教員が教室にこない場合には、学生センターに確認し、指示を受けてください。

5. 補講

休講となった授業に対しては、原則として補講が行われます。

6. 授業の欠席

授業を欠席する場合は、各授業における届出の要否・方法をシラバス等で確認し、届出が必要な授業のみ以下のとおり手続きを行ってください。

【傷病・忌引き等の場合】

学生は、科目担当教員へ欠席届を提出すること。

なお、インフルエンザ等の感染症に罹患した場合は、健康サポートセンターへの連絡も必要です。

【検察審査員・補充員に選任された場合】

(1) 学生は「欠席届」に授業科目名、欠席期間を記入する。欠席理由は記入しない。

(2) 学生は科目担当教員へ欠席届を提出の上、口頭で、検察審査員に選任されたことを伝える。

(3) 学生は検察審査会議へ出席した後、検察審査会事務局へ、会議へ出席したことを証明する文書の発行を依頼する。証明書が届き次第、欠席した科目の担当教員へ提示する。

【裁判員に選任された場合】

- (1) 学生は「欠席届」に授業科目名、欠席期間、欠席理由(裁判員に選任されたため)を記入する。
- (2) 学生は「欠席届」を教員へ提出する際、「選任手続期日のお知らせ(呼出状)」を提示する。
- (3) 教員は「選任手続期日のお知らせ(呼出状)」を確認した後、学生へ当該書類を返却する。

(注) メールによる提出については「Web 学生便覧」に標準様式を掲載しています。
<https://www.iwate-pu.ac.jp/living/gslife/info/form.html>

標準様式
QRコード



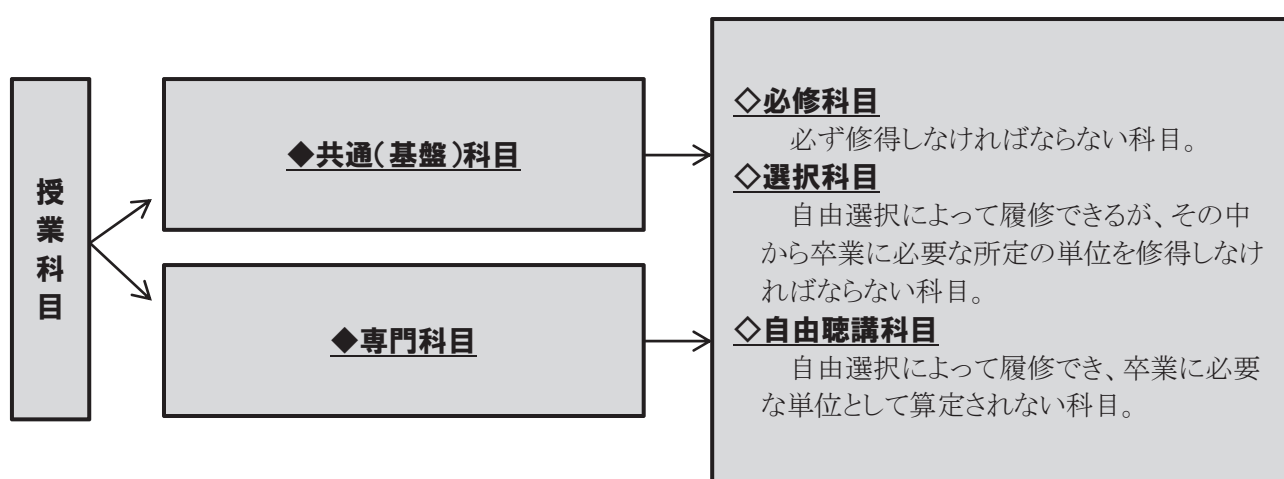
7. 特別な授業期間

通常の授業期間の他に、下記のような授業期間が設けられています。

集中講義期間	一定期間に集中して授業を行う授業科目があります。集中講義は、主に8月中旬・下旬、2月中旬に行われます。
授業等調整期間	通常の授業期間内に休講となった科目の補講や、試験が実施される期間。この期間の授業等は、通常とは違う時間割で行われます。

8. 授業科目の分類

授業科目は、次のように分類されます。



4 履修登録

1. 履修登録について

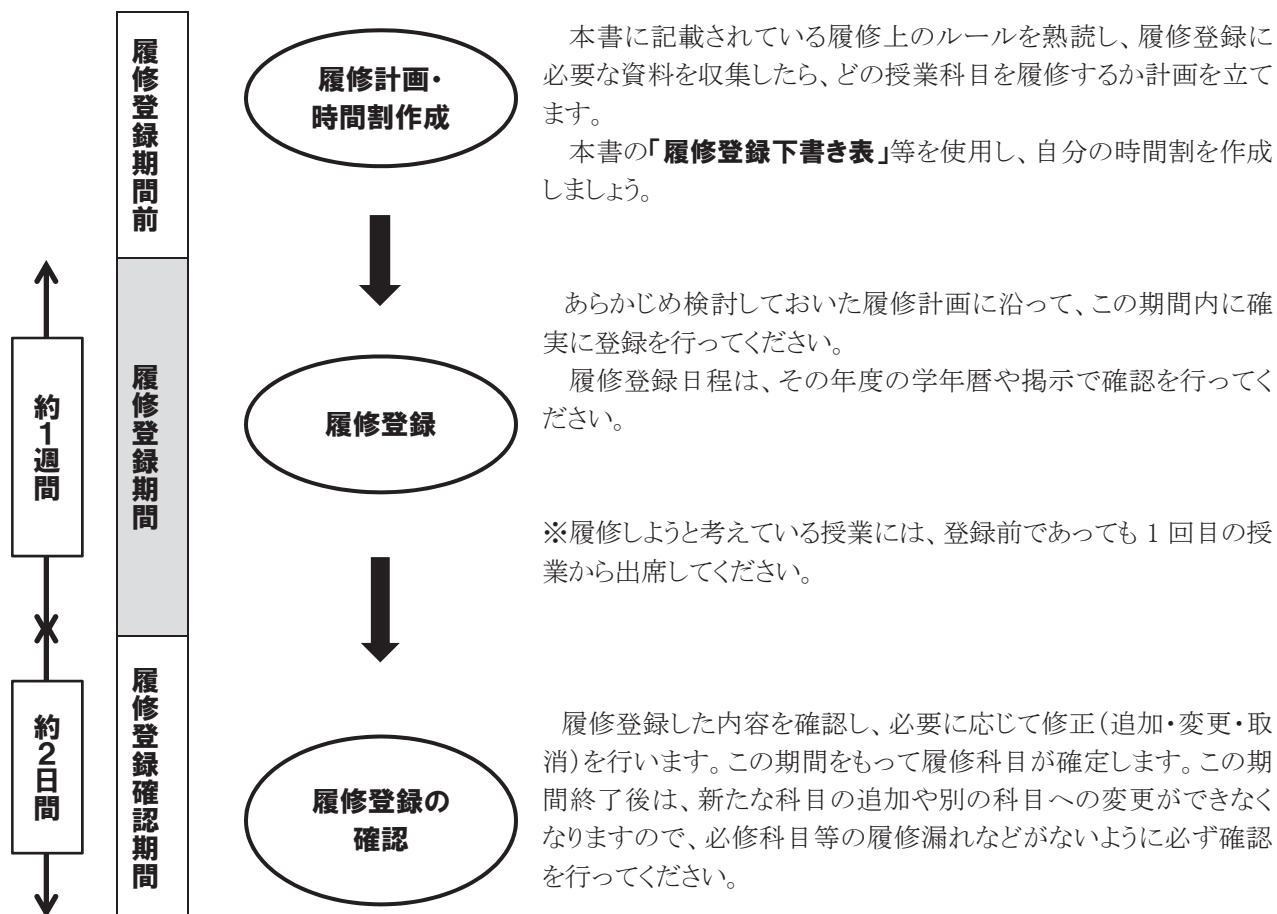
履修登録は、毎学期の初めに、学生自らが履修しようとする授業科目を登録する必須の手続です。

学生は、情報端末により、事務管理公開システムで各自履修登録を行います。なお、情報端末操作方は、「事務管理公開システム操作マニュアル」を参照してください。

この手続きを行わずに授業に出席し、試験を受けても単位を修得することはできません。

履修登録の流れや方法をしっかり理解し、各自確実に履修登録を行ってください。

2. 履修登録の流れ



3. 履修取消期間

履修登録を行い、約1ヶ月間授業を受けてみて、当初の目的が達成される見込みがない等の理由がある場合には、この期間中に履修登録を取り消すことができます。履修の取消には、「履修取消届」の提出が必要です。

これは、履修放棄による「不可」評価でGPA数値(「7 成績評価」参照)が低下することを防ぐための措置として設けているものです。

4. 履修登録の注意事項

履修できない科目

- ・履修登録をしていない授業科目
- ・既に単位を修得した授業科目
- ・授業時間帯が重複する授業科目(隔週開講科目除く)
- ・先修条件のある科目で、履修希望者がその条件を満たしていない場合

通年開講科目

前期開講科目は前期、後期開講科目は後期にそれぞれ履修登録を行うのが原則です。ただし、通年開講科目の場合は、前期に履修登録を行うと後期は自動的に履修登録が行われます。

実習科目・集中講義科目

曜日・時限ごとに登録する画面の下に、集中講義と実習の項目がありますので、忘れずに登録を行ってください。

配当年次と履修時期

授業科目には履修できる年次の制限(開講年次)があり、自分の年次と同じ、又は下位の開講年次の授業科目は履修できますが、上位の開講年次の授業科目は履修できません。

再履修

単位の修得が認められなかった科目は、他の履修希望科目との時間割が重複しない場合に限り、後年に再履修することができます。

科目の追加・変更

履修取消期間における履修取消を除き、履修登録確認期間終了後の科目の追加や変更は認められません。

5. 国際文化学科クラス指定科目の履修登録

国際文化学科の英語科目、基礎演習Ⅰ・Ⅱ及び日本語表現Ⅰは、所属するクラスがあらかじめ指定されています。学部棟掲示板や担当教員に確認のうえ、指定されたクラスの開講曜日・時限の各科目を履修登録してください。**指定外の開講曜日・時限で授業に出席した場合、単位を修得することはできません。**

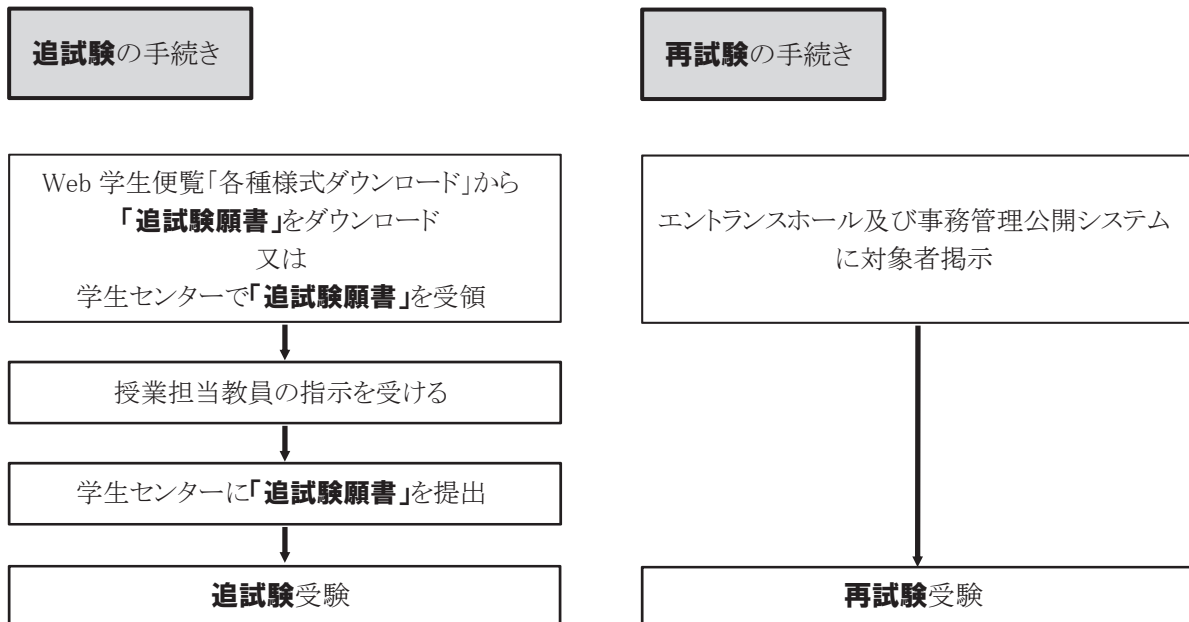
5 試験

1. 試験の種類

期末試験・ 随時試験	期末試験は、概ね授業最終日に実施されます。ただし、授業の担当教員が必要と認めたときは随時試験が行われ、これをもって期末試験の代わりとすることがあります。
追試験	所定の試験に欠席した者に対する試験。原則として行わないが、病気その他やむを得ない事情がある場合に限り、願い出により追試験を受けることができます。
再試験	試験を受験して不合格になった者に対する再度の試験。原則として行わないが、やむを得ない事情により教授会で認められた場合には、再試験を受けることができます。

2. 追試験・再試験の手続方法

追試験および**再試験**の手続きは、それぞれ以下のように行います。



3. 試験の方法

試験は、筆記、口述、レポート提出、実技、実習等により行われます。

4. 受験上の注意

- 履修登録をしていない授業科目の受験は認められません。
- 試験の受験に際しては、学生証を机上に提示してください。
- 試験において**不正行為**をした者は、学則による懲戒処分を受けるほか、当該学期の成績「不可」の措置があります。

不正行為の取扱い

試験における不正行為とは、次に掲げる行為をいいます。

- (1) 試験監督者の指示や注意に従わないこと。
- (2) 代人として受験すること、又は、代人に受験させること。
- (3) 試験解答用紙を交換すること。
- (4) カンニング・ペーパー及びそれに類するメモ類等の用意、又は、それらを使用すること。
- (5) 所持品、身体、机、壁等に解答及びそれに類するものを書き込むこと。
- (6) 使用が許可されていない書籍、ノート等を使用すること。
- (7) 使用が許可されている書籍、ノート等を貸借すること。
- (8) 解答を写させること、又は、写しとること。
- (9) 他人の解答を盗み見ること。
- (10) 声、動作等で解答を伝達すること、又は、伝達を受けること。
- (11) 作成者の許諾の有無に係わらず、他人が作成したレポートを盗用し、自分の文章として提出すること。
- (12) レポートに出典を明記せずに、文献やインターネット、電子書籍の記述・内容をコピーし、レポートに利用すること。
- (13) 他人に依頼し、または他人の依頼を受けてレポートを作成すること。
- (14) その他、これに類する行為を行うこと。

6 学修、授業を受ける際の注意事項

1. 授業を受けるに際しての注意事項

授業を受ける際には以下の基本的なルールを守るとともに、担当教員の注意や指示に従ってください。各自、快適な授業環境を維持するために以下を遵守してください。

他の学生への授業の妨害行為、迷惑行為の禁止

- 私語、講義中の入退室（遅刻、断りのない退室等）飲食など、授業の妨げとなる行為
- 他の学生の授業の迷惑となる行為
- 授業の様子を撮影、録画、録音
- 他の学生の写真、動画等の無断撮影、SNS 等への無断アップロード

行為の程度によっては「岩手県立大学学則 37 条 3 項 4 号に該当し、懲戒（訓告、停学および退学）を受ける可能性があります。

【参考】

（懲戒） 第 37 条 学長は、この規則その他の規程に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした学生を懲戒することができる。

3 退学の処分は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。

（4）本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

2. 授業を受ける、また学修に際しての情報モラルの遵守

Web 上には生成 AI をはじめとした様々なサービスが提供されています。安易な活用が自身の学修の妨げになるばかりか違法な使用となる可能性があることを認識するとともに、情報モラル（個人情報保護・人権、著作権・ネットワーク上のルール等）の遵守に努めてください。

情報モラルに関する留意事項

- ◆ 自分以外の個人が特定できる情報を課題・レポート等に記載しない。
- ◆ 担当教員の許可なく、次のような行為をしない。
 - 授業で提供された資料等の他者への配布、公開
 - 授業の様子を撮影、録画、録音したデータ等の他者への配布、公開
 - オンライン会議システムの URL や認証情報等の他者への公開
- ◆ Web 上のコンテンツ、他者の成果物（レポート、論文等）の無断使用

◆ 対象とする生成 AI

本ガイドラインは、ChatGPT に代表される生成 AI の教学面での利用に際して留意すべき事項をまとめたものです。生成 AI は、利用者が入力したデータや事前学習で使用した膨大なデータをもとに、文章や画像、動画、プログラム等（以下、生成物とよぶ）を生成することができます。本ガイドラインでは、生成 AI を利用する際に留意すべきことを、生成 AI へ入力するデータと、生成物の利用に着目しながら、禁止事項・注意事項・利活用の場面例として整理しました。

◆ 利用について

本学では、生成 AI の利用について、一律に禁止も推奨も行いません。

◆ 利用上の禁止事項

【禁止すべき入力内容】

- ・秘匿性の高い情報を入力すること
- ・個人の肖像、著名人の顔を入力すること

【禁止すべき生成物とその利用】

- ・違法、又は悪意ある行為とされるコンテンツの生成、またそれを利用すること
- ・自身の著作物（研究成果、作品等）作成において、他者の著作物を用いての類似性、依拠性のあるコンテンツを生成し、利用すること
- ・各生成 AI サービスの規約上の制限に違反した利用をすること

◆ 学生向け注意事項

【授業における利用】

- ・授業やゼミにおける課題やレポート、卒業論文等を含むあらゆる提出物、定期試験は、学生自身が考えて作成・回答し、個々人のアイデアや独創性を保つことを意識し、生成 AI をツールとして使いこなすこと。また、授業における生成 AI の利用の可否については、担当教員の指示に従うこと。
- ・生成 AI への入力が学習データとして利用されることで、他の利用者への回答として提示され、情報が意図せず流出・漏えいする懸念もある点に十分注意すること。
- ・生成 AI から出力された情報（文章・画像等）の中には、他者が著作権を有するものも含まれている可能性があります。また、生成 AI には最新の情報や専門的な情報が必ずしも反映されていない可能性や、不正確な情報・矛盾する情報、差別や偏見、バイアスが含まれている可能性があります。そのため、生成 AI から出力された情報については利用者自身が責任をもって内容を精査・検討するとともに、精査せずに提出された課題や論文等に剽窃や不適切な引用、捏造等が確認された場合は、当該学生自身が懲戒処分の対象となりうる点に十分注意すること。

◆ その他

「生成 AI の教学面での利用ガイドライン」には上記の内容の他、課外活動（就職活動、サークル活動、アルバイト等）における利用の注意事項や、想定される利活用の場面例を掲載していますので、各自確認してください。

7 成績評価

1. 成績評価の方法

成績は、試験の成績、平常の成績及び出席状況等を総合的に判断して評価されます。
評価方法は授業科目ごとに異なり、シラバスに記載されています。

2. 単位認定・成績通知

成績の評価は次のとおりです。合格した場合には所定の単位が与えられます。
成績について文書による通知は行いませんので、学期末に各自で事務管理公開システムにより確認してください。

◆評点を付す授業科目

評価		GP	評点	成績評価の定義
合格	秀	4	90 点 以上	目標を上回る特に優れた水準に達している。
	優	3	90 点 未満 80 点 以上	目標に関して十分な水準に達している。
	良	2	80 点 未満 70 点 以上	目標に関して事前に想定される標準的な水準に達している。
	可	1	70 点 未満 60 点 以上	目標に関する基本的な水準に達している。
不合格	不可	0	60 点 未満	目標に関する基本的な水準に達していない。

※「GP」は「グレードポイント」の略であり、「GPA」の算定のために利用されます。

◆評点を付さない授業科目

ごく例外的に特別な事情がある場合のみ、合格または不合格の評価を行うことがあります。

成績評価	評点
合格	60 点以上相当の評価
不合格	60 点未満相当の評価

3. GPA制度

GPA(Grade Point Average)制度は、主に米国の大学で一般的に行われている成績評価方法の一種で、学生ごとの履修科目の成績の平均を数値により表すものです。

GPAは「学期 GPA」、「年度 GPA」、「通算 GPA」の3種類が算定されます。学生自身の成績が具体的な数値として表されるため、自主的な履修計画や学修目標の設定に利用することが可能となります。

また、自分の成績が学部内でどの程度の位置にいるのかを把握する目安とするため、学期ごとに学部別の通算GPAの平均値を学内ホームページで公開します。

GPAの計算

学期GPA	年度GPA
$\frac{\begin{array}{c} \text{(当該学期に評価を受けたGPA対象科目で得たGP} \\ \times \\ \text{当該科目の単位数)の合計} \end{array}}{\text{当該学期に評価を受けたGPA対象科目の単位数の合計}}$	$\frac{\begin{array}{c} \text{(当該年度に評価を受けたGPA対象科目で得たGP} \\ \times \\ \text{当該科目の単位数)の合計} \end{array}}{\text{当該年度に評価を受けたGPA対象科目の単位数の合計}}$
通算GPA	
$\frac{\begin{array}{c} \text{(在学中に評価を受けた全GPA対象科目で得たGP} \\ \times \\ \text{当該科目の単位数)の合計} \end{array}}{\text{在学中に評価を受けたGPA対象科目の単位数の合計}}$	

GPA対象科目

GPA算出の対象となる科目は、学部ごとに異なります。授業科目一覧で確認してください。

GPAの通知

学期末の成績通知と同時に、事務管理公開システムにより確認することができます。

4. 既修得単位の認定

本学に入学する前に大学等において履修した授業科目について修得した単位は、本学における授業科目の履修により修得した単位として認められることがあります。この場合、既修得単位認定申請書に所定書類を添えて学生センターに提出する必要があります。

認定できる単位数には、下記のとおり上限が定められています。

	修得単位認定上限
岩手県立大学	60 単位
岩手県立大学盛岡短期大学部	30 単位
岩手県立大学大学院	15 単位

なお、岩手県立大学四年制学部の3年次への編入学生に対する既修得単位の認定は、別に定められています。

8 卒業及び学位

2年以上在学し所定の単位数を修得した学生には卒業が認定され、次の学位が授与されます。

学科	学位
生活科学科	短期大学士(生活科学) Associate of Science
国際文化学科	短期大学士(国際文化) Associate of Arts

9 他学科(専攻)履修

本学では、学修の幅を広げるため、所属する学科(専攻)に指定されていない他学科(専攻)の授業科目(実験及び実習科目等を除く)の履修を認めています。

1. 履修できる科目

開講科目は、シラバスに掲載されています。

また、各授業科目には履修できる年次の制限(開講年次)があり、履修できるのは原則として自分の年次と同じ開講年次の授業科目、及び下の開講年次の授業科目に限られます。

2. 申請方法

各学期の履修登録期間に配布する募集要項を参照の上、「他学科(専攻)授業科目履修申請書」の必要事項を記入し、学生センターに提出してください。

申請には、授業担当教員の許可及び所属学科専攻の担当教員等の指導が必要な場合がありますので、募集要項をよく確認の上、申請してください。

なお、申請は各学期の履修登録期間中に受け付けます。

3. 単位認定

他学科(専攻)で修得した単位は、原則として自由聴講科目として認定され、所属学科(専攻)の卒業要件単位には算入されません。ただし、国際文化学科では「教養科目」について生活科学科の科目を4単位まで振り替え、卒業要件単位に算入することができます。

4. 注意事項

履修決定後でも、教室の収容人数の都合等により決定を取り消すことがあります。

10 岩手県立大学間単位互換制度

本学の学生は、「岩手県立大学間単位互換制度」により、岩手県立大学(四大)及び宮古短期大学部の授業を、申請により履修することができます。修得した単位は、自由聴講科目として本学で修得したものと認定されます。

1. 学生の身分

本学の学生が岩手県立大学(四大)及び宮古短期大学部の授業科目を履修する場合は**派遣学生**、岩手県立大学(四大)及び宮古短期大学部の学生が本学の授業科目を履修する場合は**特別聴講学生**となります。

2. 出願資格

出願時において1年生から2年生に在学している学生が出願することができます。出願にあたっては、事前に教務担当教員に相談してください。

3. 授業料等

入学科、授業料、検定料は無料です。

4. 履修できる科目

開講科目は、シラバスに掲載されています。

また、各授業科目には履修できる年次の制限(開講年次)があり、履修できるのは原則として自分の年次と同じ開講年次の授業科目、及び下の開講年次の授業科目に限られます。

ただし、特別な事情がある場合は、自分の年次より上の開講年次の授業科目を履修できることがありますので、事前に学生センターに相談してください。

5. 出願方法

各学期の履修登録期間中に配布する「岩手県立大学間特別聴講学生募集要項」をよく読んで、手続きを行ってください。定員を超えた応募があった場合は、先着順となります。

出願書類	● 特別聴講学生志願書 1通 ● 派遣学生願 1通
出願期間	各学期履修登録期間
書類提出先	本学学生センター

6. 受講許可

履修時期	受講許可通知時期
前期	5月下旬
後期	10月下旬

選考結果は、本学学生センターから通知します。ただし、選考により、受講許可されなかった場合には、当該通知以前に受講した事実については無効となります。

7. 単位認定

この単位は自由聴講科目として認定され、卒業要件単位には算入されませんので注意してください。

8. 成績表示

岩手県立大学(四大)及び宮古短期大学部で修得した単位は、本学で修得した単位と区別するため、成績証明書中において「認定」と表示されます。

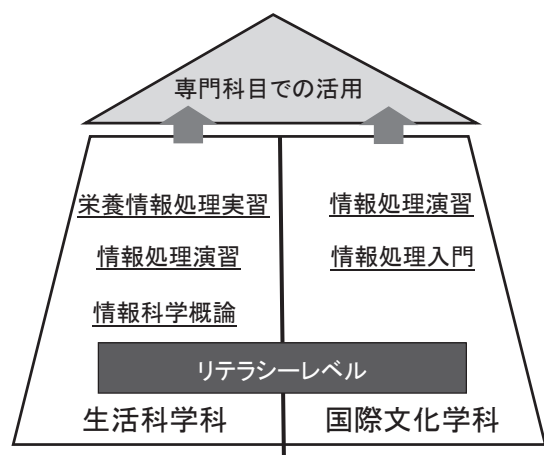
9. 注意事項

- 科目ごとに定められた定員を超えた場合には、履修できない場合があります。
- 原則として「特別聴講学生志願書」提出後の履修希望科目の変更はできません。確実に履修可能な科目のみを選択してください。

11 文理融合データサイエンス教育

数理・データサイエンス・AI は、今後のデジタル社会の基礎知識であり、すべての学部生が身につけておくべき素養ととらえ、本学では「文理融合データサイエンス教育プログラム」によって、大学における学び・研究や、将来の仕事・生活に役立つ数理・データサイエンス・AI の知識・技術を体系的に学びます。短期大学部に在学中には、すべての学生が身につけるべき基礎的な「リテラシーレベル」を学修し、四大に編入学することで「応用基礎レベル」を学修することができます。

1) プログラムの科目編成と学修目標



リテラシーレベルの学修目標

- 数理・データサイエンス・AIが社会でどのように活用されているのか理解し、自らの専門分野の学びに活用することができるための基礎的素養を身につける。

2) プログラムの修了要件

学 科	対応科目	リテラシーレベル修了要件	
		必 修	選 択
生活科学科	情報科学概論	2 単位	
	情報処理演習		選択 1 単位以上
	栄養情報処理実習		
国際文化学科	情報処理入門	2 単位	
	情報処理演習	2 単位	

3) 履修上の留意点

- 教育プログラムへのエントリーは必要ありません（受講科目ごとの履修登録は必要です）。
- リテラシーレベルを修了した場合、成績証明書にその旨が明記されます。
- 四大へ編入学したのち、応用基礎レベルを修了するためには、四大の1～4年生を対象とした応用基礎レベル対応科目を履修する必要があります。なお、四大の科目については、短期大学部に在学中にも履修することができます（岩手県立大学間単位互換制度を利用）。
- 四大の応用基礎レベルでは、リテラシーレベルの発展的な内容を学ぶために、「データサイエンス応用Ⅰ・Ⅱ」などが開講されます。

12 キャリア教育

卒業後、社会に出て様々なフィールドで活躍することを想定して入学してきているみなさんにとって、大学は専門知識や能力を学び深め、更には研究するとともに、実社会で活躍するため基礎的・汎用的に必要な意識や能力にも磨きをかける最終段階、ということもできます。

本学で開講している科目のうち、その役割を大きく担っている科目を本学の「キャリア教育」として提示しますので、その意識と目的を持ってこれらの科目を履修することを勧めます。

1 岩手県立大学のキャリア教育

岩手県立大学における「キャリア教育」は、それぞれの分野・テーマの学修・探究のなかで「社会の中で自分の役割を果たし、自分らしい生き方を実現させること」も意図し、以下のいずれかの「基礎的・汎用的能力」を育てるものとしています。

能力	内容
① 人間関係形成・社会形成能力	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる。 自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働することができる。
② 自己理解・自己管理能力	自分の価値観と将来的な可能性について肯定的に理解することができる。 自分の思考や感情をコントロールし、今後の成長のために主体的に学び、行動することができる。
③ 課題対応能力	社会における理想状態を想定することができ、現状とのギャップとなる問題を発見・分析することができる。 問題から様々な具体的課題を設定し、習得した知識・スキルを用いて、自らが実現可能で適切な計画を立て、その課題を処理・解決することができる。
④ キャリアプランニング能力	働くことの意義を理解し、働くことに自らの価値を見出すことができる。 多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用し主体的に判断して自らのキャリアを形成できる。

2 該当科目一覧

各学部で学ぶ専門知識・能力を社会の中で発揮できるよう、キャリア教育も初年次から段階的に準備されています。

基盤教育	初年次必修
	大学で学ぶ・大学を学ぶ、基礎教養入門Ⅰ、基礎教養入門Ⅱ
	選択
	いわて創造学習Ⅰ、いわて創造学習Ⅱ、いわて創造実践演習、人間と職業、キャリア地域学習
看護	看護教育論、看護管理論、看護キャリア論、看護学序論、看護対人援助論、老年看護学概論、看護コミュニケーション論、地域・在宅看護論、成人看護学概論、小児看護学概論、母性看護学概論、精神看護学概論、国際文化看護論、いわて地域ヘルスケア探究Ⅰ、いわて地域ヘルスケア探究Ⅱ、看護研究入門、卒業研究、看護技術統合演習、クオリティマネジメントⅠ、クオリティマネジメントⅡ
社会福祉	ソーシャルワーク入門、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ケア論、経営学、ソーシャルワーク論Ⅱ、人間関係論（産業・組織心理学）、生活支援方法論、介護福祉演習Ⅰ、地域福祉調査実習、コミュニティ福祉サービス実習、臨床ソーシャルワークの展開、育児支援論、障害者ケア論、認知症ケア論、現代福祉特講A、介護福祉演習Ⅱ
ソフトウェア情報	スタディスキルズ、キャリアデザインⅠ、プロジェクト演習、プレインターンシップ、キャリアデザインⅡ、システムデザイン論、システムデザイン実践論、システムデザインPBL、インターンシップ、情報と職業
総合政策	キャリア・デザインⅠ、キャリア・デザインⅡ、キャリア・デザインⅢ、法律・行政実習A、法律・行政実習B、経済実習、経営実習、地域環境調査実習A～E、共通調査実習、プレインターンシップ
盛岡短期	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ

Ⅲ 授業科目一覽表

1 生活科学科

(令和6年度以前の入学生は、担当教員の一部変更を除き、入学年度に配布された授業科目一覧表が適用されます。)

■ 共通科目 (両専攻共通)

共通科目は、生活科学科両専攻の基幹となる科目を学び、さらに、社会生活を送るうえで必要である豊かな人間性と幅広い教養を身につけると共に、さまざまな学問分野の学び方に触れ、それを専門分野の学修に応用できるように配慮しています。

また、専門科目の理解に資する観点も加味し、人間、生活、文化、社会との関連性を重視するとともに、健康で豊かな人生を創造していくうえでの知識や技術を身につけ、心身の健康を養い、情報化の進展に対応した教育を行います。

授業科目			担当教員氏名 (非)＝非常勤講師	単位数		GPA 対象	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数
				必修	選択			1		2		
								前期	後期	前期	後期	
共通科目	基礎科目	生活科学概論 ※オムニバス	青 笹 健	2		○	30	2			必修6単位修得	
			佐 藤 恭 子									
			川 崎 雅 志									
			松 本 絵 美									
		情報科学概論	山 田 敬 三 (非)	2		○	30	2				
		キャリアデザインⅠ	高 瀬 和 実 (非)	1			30	2				
		盛岡短期大学部教員										
	キャリアデザインⅡ	高 瀬 和 実 (非)	1			30		2				
	盛岡短期大学部教員											
	小 計			6	0		120	6	2	0	0	
	教養科目	哲学の世界	井 澤 清 一		2	○	30	2			必修1単位を含め 7単位以上修得	
		文学の世界	須 藤 宏 明 (非)		2	○	30	2				
		歴史と文化	菅 田 慶 信 (非)		2	○	30		2			
		法学の世界	吉 原 秋		2	○	30	2				
		心理学の世界	山 田 陽 平 (非)		2	○	30			2		
		生活の化学	千 葉 俊 之 (非)		2	○	30	2				
		生命と科学	吉 田 元 (非)		2	○	30	2				
		消費者保護論	窪 幸 治 (非)		2	○	30	2				
		文化人類学	原 英 子		2	○	30	2				
		社会学の世界	三 須 田 善 暢		2	○	30		2			
		体育実技	井 上 一 彦 (非)	1		○	30		2			
	小 計			1	20		330	14	6	2	0	
	外国語関係科目	英 語 Ⅰ	三 浦 聡 美 (非)	2		○	30	2			必修4単位を含め4 単位以上修得	
			小 川 修 平 (非)									
		英 語 Ⅱ	三 浦 聡 美 (非)	2		○	30		2			
			小 川 修 平 (非)									
		英 語 Ⅲ	上 柿 剛 (非)		2	○	30			2		
		英 語 Ⅳ	上 柿 剛 (非)		2	○	30					2
		フランス語Ⅰ	熊 本 哲 也 (非)		2	○	30	2				
		フランス語Ⅱ	熊 本 哲 也 (非)		2	○	30		2			
		ドイツ語Ⅰ	Uwe Richter (非)		2	○	30	2				
		ドイツ語Ⅱ	Uwe Richter (非)		2	○	30		2			
		中国語Ⅰ	呉 慧 敏 (非)		2	○	30	2				
		中国語Ⅱ	呉 慧 敏 (非)		2	○	30		2			
		韓国語Ⅰ	細 田 誠 司 (非)		2	○	30	2				
		韓国語Ⅱ	細 田 誠 司 (非)		2	○	30		2			
スペイン語Ⅰ		マルティデルトロビクトール(非)		2	○	30	2					
スペイン語Ⅱ		マルティデルトロビクトール(非)		2	○	30		2				
ロシア語Ⅰ		高 橋 直 美 (非)		2	○	30	2					
ロシア語Ⅱ		高 橋 直 美 (非)		2	○	30		2				
インドネシア語Ⅰ	西 川 慧 (非)		2	○	30	2						
インドネシア語Ⅱ	西 川 慧 (非)		2	○	30		2					
小 計			4	32		540	16	16	2	2		
共 通 科 目 合 計				11	52		990	36	24	4	2	必修11単位を含め 17単位以上修得

(注)外国語科目のいずれかのⅡを履修するためにはその外国語科目のⅠを原則として履修していること。

■ 専門科目
《生活デザイン専攻》

授業科目		担当教員氏名 (非)＝非常勤講師	単位数		GPA 対象	資格 建築士 指定科目 受験	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数
			必修	選択				1年		2年		
								前期	後期	前期	後期	
基礎専門科目	生活と経済	新田 義修 (非)		2	○		30		2			必修13単位を 含め21単位 以上修得
	社会福祉論	松 溪 智恵 (非)		2	○		30	2				
	生活と環境	青 笹 健	2		○	○	30	2				
	基礎造形	鈴木 真 歩	1		○		30	2				
		齋 藤 愛										
	日本の建築文化	高橋 幸男 (非)	2		○	○	30	2				
		鈴木 真 歩										
	基礎数理	大澤 朋 子	2	2	○		30	2				
		青 笹 健										
	基礎製図Ⅰ	内 田 信 平	1		○	○	30	2				
	基礎製図Ⅱ	鈴木 真 歩		1	○	○	30		2			
		内 田 信 平										
	情報処理演習	呉 書 雅 (非)	1		○		30		2			
	情報統計学	大澤 朋 子		2	○		30		2			
	老年学	小田切 宏恵 (非)	2		○		30		2			
	色彩とデザイン	齋 藤 愛	2		○		30	2				
	ファッション造形	佐 藤 恭 子	2		○		30	2				
芸術の世界	長谷川 誠 (非)		2	○		30			2			
グラフィック・デザイン	高橋 和 宏 (非)		1	○		30		2				
流通とマーケティング	三 好 純 矢 (非)		2	○		30			2			
小 計			13	14			480	16	12	4	0	
専門科目	卒業研究	生活デザイン専攻全教員	4		○		60			2	2	集中講義
	ファッション造形実習Ⅰ	菊 池 直 子 (非)		1	○		45		3			
	ファッション造形実習Ⅱ	菊 池 直 子 (非)		1	○		45			3		
	ファッション造形応用演習	大 橋 寛 子 (非)		1	○		30			2		
	テキスタイルデザイン論	齋 藤 愛	2		○		30	2				
	テキスタイルデザイン演習Ⅰ	齋 藤 愛		1	○		30		2			
	テキスタイルデザイン演習Ⅱ	齋 藤 愛		1	○		30			2		
	服飾文化論	大久保 尚子 (非)		2	○		30			2		
	ファッションと健康	齋 藤 愛	2		○		30				2	
	住宅の施工と積算	小山 公 一 (非)		2	○	○	30			2		
	建築法規Ⅰ	永 井 昌 (非)		2	○	○	30			2		
	建築法規Ⅱ	永 井 昌 (非)		2	○	○	30				2	
	ユニバーサルデザイン論	鈴木 真 歩	2		○	○	30		2			
		齋 藤 愛										
	住宅の計画	内 田 信 平	2		○	○	30		2			
		窪 田 亜 矢 (非)										
		荒 木 笙 子 (非)										
		植 田 啓 太 (非)										
	地域の計画	山 梨 裕 太 (非)	2		○	○	30		2			
		青 笹 健										
		青 笹 健										
		青 笹 健										
	住宅の環境	青 笹 健	2		○	○	30		2			
	建築環境工学	青 笹 健		2	○	○	30			2		
	建築設備	青 笹 健		2	○	○	30				2	
建築環境・設備演習	青 笹 健		1	○	○	30				2		
建築構造力学Ⅰ	大澤 朋 子		2	○	○	30			2			
建築構造力学Ⅱ	大澤 朋 子		2	○	○	30				2		
住宅の構造	大澤 朋 子	2		○	○	30		2				
建築材料	大澤 朋 子		2	○	○	30			2			
建築構造・材料実験	大澤 朋 子		1	○	○	30			2			
建築構造・材料演習	内 田 信 平		1	○	○	30				2		
インテリアデザイン論	鈴木 真 歩	2		○	○	30		2				
インテリアデザイン演習	鈴木 真 歩		1	○	○	30				2		

(注) ・「基礎製図Ⅱ」を履修するためには「基礎製図Ⅰ」を、「建築環境工学」を履修するためには「住宅の環境」を、「建築構造力学Ⅱ」を履修するためには「建築構造力学Ⅰ」を、「インテリアデザイン論」を履修するためには「基礎製図Ⅰ」を、「インテリアデザイン演習」を履修するためには「基礎製図Ⅰ」および「インテリアデザイン論」を各々履修していることが必要である。

・「ファッション造形実習Ⅱ」を履修するためには「ファッション造形実習Ⅰ」を、「ファッション造形応用演習」を履修するためには「ファッション造形実習Ⅰ」を、「テキスタイルデザイン演習Ⅱ」を履修するためには「テキスタイルデザイン演習Ⅰ」を各々履修していることが必要である。

授業科目		担当教員氏名 (非)＝非常勤講師	単位数		GPA 対象	資格 建築士 指定科 目 受験	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数
			必修	選択				1年		2年		
								前期	後期	前期	後期	
専門科目	C A D I 演 習	内 田 信 平		1	○	○	30		2			令和7年度は開講せず
	C A D II 演 習	内 田 信 平		1	○	○	30			2		
	住 宅 設 計 演 習 I	内 田 信 平		2	○	○	45			3		
	住 宅 設 計 演 習 II	内 田 信 平		2	○	○	45				3	
	西 洋 ・ 近 代 建 築 史	鈴 木 真 歩		2	○	○	30			2		
	近 代 意 匠 論	佐 藤 恭 子	2		○		30		2			
	岩 手 の く ら し と 工 芸	生活デザイン専攻全教員	2		○		30				2	
	小 計		22	37			1110	2	21	30	21	
専 門 科 目 合 計			35	51			1590	18	33	34	21	必修35単位を 含め51単位 以 上 修 得

(注)「CADⅡ演習」を履修するためには「CADⅠ演習」を、「住宅設計演習Ⅰ」を履修するためには「住宅の計画」および「基礎製図Ⅰ・Ⅱ」を、「住宅設計演習Ⅱ」を履修するためには「住宅設計演習Ⅰ」を各々履修していることが必要である。

■ 卒業要件

《生活科学科生活デザイン専攻》

区分	配当	卒業要件単位数		
	単位数	必修	選択	計
共 通 科 目	63	11	6	17
基礎専門科目	27	13	8	21
専 門 科 目	59	22	8	30
合 計	149	46	22	68

■ 二級建築士及び木造建築士受験資格取得に関わる指定科目

指定科目一覧

規程科目及び規程単位数	本学における科目名及び単位数			受験資格取得に必要な単位数
建築士法第15条第一号から第三号に規定する国土交通大臣の指定する建築に関する科目（指定科目）	授業科目の名称	単位数		
		必修	選択	
①建築設計製図	①住宅設計演習Ⅰ		2	要件3単位以上
	①住宅設計演習Ⅱ		2	
	①CADⅡ演習		1	
	①基礎製図Ⅱ		1	
②～④建築計画、建築環境工学又は建築設備	②住宅の計画	2		要件2単位以上
	②日本の建築文化	2		
	②西洋・近代建築史		2	
	③住宅の環境	2		
	③建築環境工学		2	
	③建築環境・設備演習		1	
	④建築設備		2	
	⑤～⑦構造力学、建築一般構造又は建築材料	⑤建築構造力学Ⅰ		
⑤建築構造力学Ⅱ		2		
⑥住宅の構造	2			
⑦建築材料		2		
⑦建築構造・材料実験		1		
⑦建築構造・材料演習		1		
⑧建築生産	⑧住宅の施工と積算		2	要件1単位以上
⑨建築法規	⑨建築法規Ⅰ		2	要件1単位以上
	⑨建築法規Ⅱ		2	
⑩その他	⑩ユニバーサルデザイン論	2		要件適宜
	⑩CADI演習		1	
	⑩インテリアデザイン論	2		
	⑩インテリアデザイン演習		1	
	⑩基礎製図Ⅰ	1		
	⑩地域の計画		2	
	⑩生活と環境	2		
①～⑨の単位数合計			35	要件10単位以上
①～⑩の単位数合計			46	要件20単位以上

必要な実務経験年数

	①～⑩の単位数合計	
試験時	20単位以上	0年

* 合計20単位以上で、かつ、①～⑨の全ての分野について、それぞれに必要な単位数を修得している必要がある。

	①～⑩の単位数合計	
登録時 (免許登録の際までに必要な年数)	40単位以上	0年
	30単位以上	1年
	20単位以上	2年

《食物栄養学専攻》

授業科目		担当教員氏名 (非)＝非常勤講師	単位数		GPA 対象	栄養士 必修	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数	
			必修	選択				1		2			
								前期	後期	前期	後期		
基礎専門科目	生活と経済	新田義修(非)		2	○		30		2			必修6単位を 含め8単位以上 修得	
	食生活論	加藤哲子	2		○		30	2					
	食品有機化学	千葉俊之(非)	2		○		30	2					
	老年学	小田切宏恵(非)		2	○		30		2				
	食文化論 (岩手のくらしと食)	長坂慶子	2		○		30				2		
	数学基礎	川村祥平(非)		1	○		15	1					
	小計			6	5			165	5	4	0	2	
専門科目	社会と健康 生活	社会福祉論	本間萌(非)		2	○	○	30	2				必修34単位を含め 40単位以上修得 集中講義
		公衆衛生学	千葉啓子(非)	2		○	○	30			2		
		基礎統計学	相馬優樹(非)		2	○	○	30		2			
		健康管理概論	佐々木亮平(非)		2	○	○	30		2			
	人体の 構造と機能	生化学Ⅰ	川崎雅志	2		○	○	30		2			
		生化学Ⅱ	川崎雅志		2	○	○	30			2		
		解剖生理学	加藤章信(非)	2		○	○	30		2			
		解剖生理学実験	川崎雅志 英士貴		1	○	○	45				3	
		運動生理学	栗林徹(非)	2		○	○	30			2		
	食品と衛生	食品学Ⅰ	笹田怜子	2		○	○	30	2				
		食品学Ⅱ	長坂慶子	2		○	○	30		2			
		食品学実験Ⅰ	笹田怜子 英士貴		1	○	○	45		3			
		食品学実験Ⅱ (食品加工を含む)	笹田怜子 英士貴		1	○	○	45				3	
		食品加工学	笹田怜子	2		○	○	30				2	
		食品衛生学	笹田怜子	2		○	○	30	2				
		食品衛生学実験	笹田怜子 英士貴		1	○	○	45			3		
		栄養と健康	基礎栄養学	川崎雅志	2		○	○	30	2			
	応用栄養学		加藤哲子	2		○	○	30	2				
	栄養学実験		川崎雅志 英士貴		1	○	○	45	3				
	応用栄養学実習		加藤哲子 岩本佳恵		1	○	○	45		3			
	臨床栄養学Ⅰ		加藤哲子	2		○	○	30		2			
	臨床栄養学Ⅱ (病理学を含む)		高橋和眞(非) 遠藤龍人(非)		2	○	○	30			2		
	臨床栄養学実習		加藤哲子 岩本佳恵		1	○	○	45			3		

授業科目			担当教員氏名 (非)＝非常勤講師	単位数		GPA 対象	栄養士	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数	
				必修	選択				1		2			
							前期		後期	前期	後期			
専 門 科 目	栄養の指導	公衆栄養学	浅沼美由希	2		○	○	30				2		
		栄養教育論	浅沼美由希	2		○	○	30		2				
		栄養指導論	浅沼美由希		2	○	○	30			2			
		栄養教育・指導実習	浅沼美由希		1	○	○	45			3			
		栄養情報処理実習	英士貴											
			浅沼美由希 加藤本絵美 未定		1	○	○	45				3		
	給食の運営	調理学	長坂慶子	2		○	○	30	2					
		調理学実験	長坂慶子 岩本佳恵 松本絵美 未定		1	○	○	45		3				
		調理学実習Ⅰ	松本絵美 未定		2	○	○	90	3	3				
		調理学実習Ⅱ	長坂慶子 岩本佳恵 松本絵美 未定		1	○	○	45			3			
		調理学実習Ⅲ	長坂慶子 岩本佳恵 松本絵美 未定		1	○	○	45				3		
		給食管理論	松本絵美	2		○	○	30		2				
		給食管理演習	松本絵美		2	○	○	45			2			
		給食管理実習Ⅰ (学内)	松本絵美 未定		1	○	○	45			3			
		給食管理実習Ⅱ (学外)	加藤哲子 浅沼美由希 松本絵美 岩本佳恵 未定		2	○	○	(90)				特		
			卒業研究		食物栄養学専攻教員	4		○		60				2
	小計			34	31			1410 (90)	18	28	29	18		
専門科目合計			40	36			1575 (90)	23	32	29	20	必修40単位 を含め48単位以上修得		

(注) ・給食管理実習Ⅱ(学外)を履修するためには、1年及び2年前期までの栄養士免許取得専門科目(必修科目)の単位が修得見込みであること。

・週配当時間中、「特」は、実習施設における校外実習である。

■ 卒業要件

《生活科学科食物栄養学専攻》

【参考】栄養士免許を取得し、卒業するために必要な単位数

区分	配当	卒業要件単位数		
	単位数	必修	選択	計
共通科目	63	11	6	17
基礎専門科目	11	6	2	8
専門科目	65	34	6	40
合計	139	51	14	65

区分	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
共通科目	11	6	17
基礎専門科目	6	2	8
専門科目	34	31	65
合計	51	39	90

■ 栄養士免許取得専門科目

規定科目及び規定単位数			本学の専門科目及び単位数		
授業内容	単位数		科目名	単位数	
	講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習
社会生活と健康	4	4	社会福祉論	2	
			公衆衛生学	2	
			基礎統計学	2	
			健康管理概論	2	
			社会生活と健康の小計	8	0
人体の構造と機能	8		生化学Ⅰ	2	
			生化学Ⅱ	2	
			解剖生理学	2	
			解剖生理学実験		1
			運動生理学	2	
			人体の構造と機能の小計	8	1
食品と衛生	6		食品学Ⅰ	2	
			食品学Ⅱ	2	
			食品学実験Ⅰ		1
			食品学実験Ⅱ（食品加工を含む）		1
			食品加工学	2	
			食品衛生学	2	
			食品衛生学実験		1
			食品と衛生の小計	8	3
栄養と健康	8	10	基礎栄養学	2	
			応用栄養学	2	
			栄養学実験		1
			応用栄養学実習		1
			臨床栄養学Ⅰ	2	
			臨床栄養学Ⅱ（病理学を含む）	2	
			臨床栄養学実習		1
			栄養と健康の小計	8	3
栄養の指導	6		公衆栄養学	2	
			栄養教育論	2	
			栄養指導論	2	
			栄養教育・指導実習		1
			栄養情報処理実習		1
			栄養の指導の小計	6	2
給食の運営	4		調理学	2	
			調理学実験		1
			調理学実習Ⅰ		2
			調理学実習Ⅱ		1
			調理学実習Ⅲ		1
			給食管理論	2	
			給食管理演習	2	
			給食管理実習Ⅰ		1
			給食管理実習Ⅱ		2
			給食の運営の小計	6	8
	36	14	小計	44	17
	50		合計	61	

2 国際文化学科

(令和6年度以前の入学生は、担当教員の一部変更を除き、入学年度に配布された授業科目一覧表が適用されます。)

■ 基盤科目

授業科目		担当教員氏名 (非)＝非常勤講師	単位数		GPA 対象	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数
			必修	選択			1年		2年		
							前期	後期	前期	後期	
教養科目	文 学 の 世 界	須 藤 宏 明 (非)		2	○	30	2				必修2単位を含 め10単位以上 修得 また、他学科履 修により「教養 科目」について 生活科学科の 科目を4単位ま で振り替えるこ とができる
	数 理 科 学	村 木 尚 文 (非)		2	○	30		2			
	経 済 学	中 村 良 則 (非)		2	○	30		2			
	社 会 学	三 須 田 善 暢		2	○	30		2			
	法 学 の 世 界	吉 原 秋		2	○	30			2		
	地 理 学 入 門	吉 木 岳 哉 (非)		2	○	30		2			
	心 理 学 の 世 界	山 田 陽 平 (非)		2	○	30			2		
	哲 学	井 澤 清 一		2	○	30	2				
	社 会 福 祉 学	松 溪 智 恵 (非)		2	○	30			2		
	情 報 処 理 入 門	吳 書 雅 (非)	2		○	30	2				
体 育 実 技	千 葉 智 行 (非)		1	○	30	2		2			
小 計			2	19		330	8	8	8	0	
キャリア科目	キャリアデザインⅠ	高瀬 和実 (非)	1			30	2				必修2単位を 修得
		盛岡短大部教員									
	キャリアデザインⅡ	高瀬 和実 (非)	1			30		2			
		盛岡短大部教員									
小 計			2	0		60	2	2	0	0	
基 盤 科 目 合 計			4	19		390	10	10	8	0	必修4単位 を含め12単位 以上修得

■ 専門科目

授業科目		担当教員氏名 (非) = 非常勤講師	単位数		GPA 対象	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数
			必修	選択			1年		2年		
							前期	後期	前期	後期	
基礎専門科目	文 化 人 類 学	原 英 子		2	○	30	2				必修22単位を 含め28単位 以上修得
	ジェンダー論	熊 本 早 苗		2	○	30	2				
	近 代 社 会 論	小 林 一 穂 (非)		2	○	30		2			
	多 文 化 共 生 論	吉 原 秋		2	○	30		2			
	コミュニケーション論A	照 井 悦 幸 (非)		2	○	30		2			
	コミュニケーション論B	Hamish Smith		2	○	30			2		
	基礎演習Ⅰ	国際文化学科教員	2		○	30	2				
	基礎演習Ⅱ	国際文化学科教員	2		○	30		2			
	日 本 語 表 現 Ⅰ	伊 藤 博 美	2		○	30		2			
		塩 谷 昌 弘 (非)									
	日 本 語 表 現 Ⅱ	紅 林 健 志 (非)		2	○	30			2		
		河 邊 邦 博 (非)									
	国 際 文 化 理 解 演 習 Ⅰ	熊 本 早 苗		2	○	30	2				
		Hamish Smith									
		Patrick Maher									
		小 野 田 摂 子									
	国 際 文 化 理 解 演 習 Ⅱ	吉 原 秋		2	○	30		2			
		熊 本 早 苗									
		Hamish Smith									
		Patrick Maher									
	総 合 英 語 Ⅰ - A	小 野 田 摂 子	2		○	30	2				
吉 原 秋											
総 合 英 語 Ⅰ - B	Hamish Smith	2		○	30	2					
	Patrick Maher										
総 合 英 語 Ⅱ - A	井 澤 清 一	2		○	30	2					
	佐 藤 信 幸 (非)										
総 合 英 語 Ⅱ - B	Hamish Smith	2		○	30		2				
	Patrick Maher										
総 合 英 語 Ⅲ - A	井 澤 清 一	2		○	30			2			
	佐 藤 信 幸 (非)										
総 合 英 語 Ⅲ - B	Hamish Smith	2		○	30			2			
	Patrick Maher										
総 合 英 語 Ⅳ - A	井 澤 清 一	2		○	30				2		
	佐 藤 信 幸 (非)										
総 合 英 語 Ⅳ - B	Hamish Smith	2		○	30				2		
	Patrick Maher										
	井 澤 清 一	2		○	30				2		
	若 名 咲 香 (非)										
小 計			22	18	0	600	12	16	8	4	

授業科目			担当教員氏名 (非)＝非常勤講師	単位数		GPA 対象	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数
				必修	選択			1年		2年		
								前期	後期	前期	後期	
専門科目	専門共通	中国語Ⅰ	呉 慧 敏 (非)		*2	○	30	2				*中国語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ、韓国語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ、スペイン語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ、ドイツ語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ、フランス語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ、ロシア語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ、インドネシア語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳのうち、一言語4単位を必修とする。この必修4単位を含めて専門科目の必修科目は6単位である。専門科目においては必修6単位を含め24単位以上を修得することとする。
		中国語Ⅱ	呉 慧 敏 (非)		*2	○	30		2			
		中国語Ⅲ	呉 慧 敏 (非)		*2	○	30			2		
		中国語Ⅳ	呉 慧 敏 (非)		*2	○	30				2	
		韓国語Ⅰ	細 田 誠 司 (非)		*2	○	30	2				
		韓国語Ⅱ	細 田 誠 司 (非)		*2	○	30		2			
		韓国語Ⅲ	細 田 誠 司 (非)		*2	○	30			2		
		韓国語Ⅳ	細 田 誠 司 (非)		*2	○	30				2	
		スペイン語Ⅰ	マルティデルトロビクトール(非)		*2	○	30	2				
		スペイン語Ⅱ	マルティデルトロビクトール(非)		*2	○	30		2			
		スペイン語Ⅲ	マルティデルトロビクトール(非)		*2	○	30			2		
		スペイン語Ⅳ	マルティデルトロビクトール(非)		*2	○	30				2	
		ドイツ語Ⅰ	Uwe Richter (非)		*2	○	30	2				
		ドイツ語Ⅱ	Uwe Richter (非)		*2	○	30		2			
		ドイツ語Ⅲ	Uwe Richter (非)		*2	○	30			2		
		ドイツ語Ⅳ	Uwe Richter (非)		*2	○	30				2	
		フランス語Ⅰ	熊 本 哲 也 (非)		*2	○	30	2				
		フランス語Ⅱ	熊 本 哲 也 (非)		*2	○	30		2			
		フランス語Ⅲ	熊 本 哲 也 (非)		*2	○	30			2		
		フランス語Ⅳ	熊 本 哲 也 (非)		*2	○	30				2	
		ロシア語Ⅰ	高 橋 直 美 (非)		*2	○	30	2				
		ロシア語Ⅱ	高 橋 直 美 (非)		*2	○	30		2			
		ロシア語Ⅲ	高 橋 直 美 (非)		*2	○	30			2		
		ロシア語Ⅳ	高 橋 直 美 (非)		*2	○	30				2	
		インドネシア語Ⅰ	西 川 慧 (非)		*2	○	30	2				
		インドネシア語Ⅱ	西 川 慧 (非)		*2	○	30		2			
		インドネシア語Ⅲ	西 川 慧 (非)		*2	○	30			2		
		インドネシア語Ⅳ	西 川 慧 (非)		*2	○	30				2	
	アジア文化理解論	木 村 敏 明 (非)		2	○	30	2					
	西洋文化理解論	Hamish Smith		2	○	30	2					
	政治学	小 野 田 撰 子		2	○	30			2			
	国際関係論	小 野 田 撰 子		2	○	30		2				
	国際経済論	中 村 良 則 (非)		2	○	30			2			
	日本国憲法	吉 原 秋		2	○	30				2		
	比較文化研究法	原 英 子		2	○	30			2			
	比較文化演習	原 英 子		2	○	30				2		
	西洋文化	西洋の歴史	小 野 田 撰 子		2	○	30	2				「西洋の文化と思想A」又は「西洋の文化と思想B」のいずれかから2単位以上修得すること。
		西洋の文化と思想A	小 野 田 撰 子		2	○	30	2				
		西洋の文化と思想B	熊 本 早 苗		2	○	30		2			
		西洋文化研究法A	小 野 田 撰 子		2	○	30			2		
		西洋文化研究法B	熊 本 早 苗		2	○	30			2		
		西洋文化演習A	小 野 田 撰 子		2	○	30				2	
西洋文化演習B		熊 本 早 苗		2	○	30				2		
西洋社会論		吉 原 秋		2	○	30			2			
アジア文化	西洋社会論演習	Patrick Maher 熊 本 早 苗		2	○	30				2	「アジアの文化と思想A」又は「アジアの文化と思想B」のいずれかから2単位以上修得すること。	
	アジアの歴史	高 野 淳 一 陳 茜 (非)		2	○	30	2					
	アジアの文化と思想A	原 英 子		2	○	30	2					
	アジアの文化と思想B	高 野 淳 一		2	○	30		2				
	アジア文化研究法	佐 藤 貴 保 (非)		2	○	30			2			
	アジア文化演習	佐 藤 貴 保 (非)		2	○	30				2		
	アジア社会論	呉 慧 敏 (非)		2	○	30			2			
日本文化	アジア社会論演習	原 英 子		2	○	30				2	「日本の文化と思想A」又は「日本の文化と思想B」のいずれかから2単位以上修得すること。	
	日本文化	日本の歴史	菅 田 慶 信 (非)		2	○	30	2				
	日本の文化と思想A	伊 藤 博 美		2	○	30	2					
	日本の文化と思想B	三 須 田 善 暢		2	○	30		2				
	近代日本文化論	伊 藤 博 美		2	○	30				2		
	日本文化研究法	伊 藤 博 美		2	○	30			2			
日本文化演習	伊 藤 博 美		2	○	30				2			

授業科目				担当教員氏名 (非)＝非常勤講師	単位数		GPA 対象	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数
					必修	選択			1年		2年		
									前期	後期	前期	後期	
専門科目	日本文化	地域文化	地域の歴史と社会	八木 光 則 (非)		2	○	30	2				
			地 域 社 会 論	三 須 田 善 暢		2	○	30			2		
			地 域 社 会 研 究 法	三 須 田 善 暢		2	○	30			2		
			郷 土 の 文 学	塩 谷 昌 弘 (非)		2	○	30			2		
			地 域 社 会 論 演 習	三 須 田 善 暢		2	○	30				2	
	卒 業 研 究			国際文化学科全教員	2		○	30				2	
小 計				6	126		1920	32	22	38	36		
実践科目	通 訳 ・ 翻 訳 法			Alan Farr(非)		2	○	30			2		4 単 位 以 上 修 得
	検 定 英 語 演 習			小 川 修 平 (非)		2	○	30		2		2	
	ビ ジ ネ ス 英 語			Patrick Maher		2	○	30			2		
	英 語 表 現 演 習			Patrick Maher		2	○	30			2		
	情 報 処 理 演 習			熊 本 早 苗		2	○	30		2			
	日 本 語 表 現 演 習			伊 藤 博 美		2	○	30			2		
				五 日 市 健 (非)									
				酒 井 久 美 子 (非)									
	ビ ジ ネ ス 実 務 演 習			田 原 美 晴 (非)		2	○	30		2			
小 計				0	14	0	210	0	6	8	2		
専 門 科 目 合 計					28	158		2730	44	44	54	42	必修28単位 を含め56単位 以上修得

(注) 選択科目の外国語に関してはⅠ→Ⅱの順序で履修することが望ましい。

■ 卒業要件

区分		配当	卒業要件単位数		
		単位数	必修	選択	計
基 盤 科 目	教 養 科 目	21	2	8	10
	キャリアデザイン科目	2	2		2
基 礎 専 門 科 目		40	22	6	28
専 門 科 目		128	6	18	24
実 践 科 目		14		4	4
合 計		205	32	36	68

Ⅳ 履修登録下書き表

履修登録下書き表【記入例】

◆基本的な時間割の組み方◆

授業科目一覧表で自分の年次に開講される科目を確認し、時間割を見ながら次の手順に従って時間割を埋めていきます。科目選択の際は、必ずシラバスに目を通し授業内容を確認してください。

手順①必修科目を入れます。

手順②空いているところに選択科目を入れます。

※卒業要件単位数や各自が目指す資格取得に必要な科目を十分に確認してください。

1 年 生 前 期

← 科目名
単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限	手順② 西洋の文化と思想A 2			手順① 総合英語Ⅰ－A 2	手順② ジェンダー論 2
2時限	手順② 日本の歴史 2	手順① 情報処理入門 2	手順② インドネシア語Ⅰ 2		手順② 韓国語Ⅰ 2
3時限	手順② 西洋の歴史 2	手順② アジアの文化と思想A 2	手順① 総合英語Ⅰ－B 2	手順① 基礎演習Ⅰ 2	
4時限	手順② 体育実技 1		手順① キャリアデザインⅠ 1	手順② 国際文化理解演習Ⅰ 2	
5時限			手順① キャリアデザインⅠ -	手順② 日本の文化と思想A 2	
集中講義・ 実習など					

合計単位数
28 単位

時間割を全て組み終えたら、履修登録をしましょう！

履修登録下書き表

年生 期

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					

Web学生便覧
QRコード



合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					

Web学生便覧
QRコード



合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					

Web学生便覧
QRコード



合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					

Web学生便覧
QRコード



合計単位数

単位

地域に 未来に 多様なアートを



岩手県立大学

岩手県立大学 盛岡短期大学部

Iwate Prefectural University, Morioka Junior College

〒020-0693 岩手県滝沢市巣子152-52

TEL 019-694-2000(代) FAX 019-694-2001(代)

ホームページアドレス <https://www.iwate-pu.ac.jp>